

Ⅳ 未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象
～ 家庭生活・自転車の利用についてなど ～

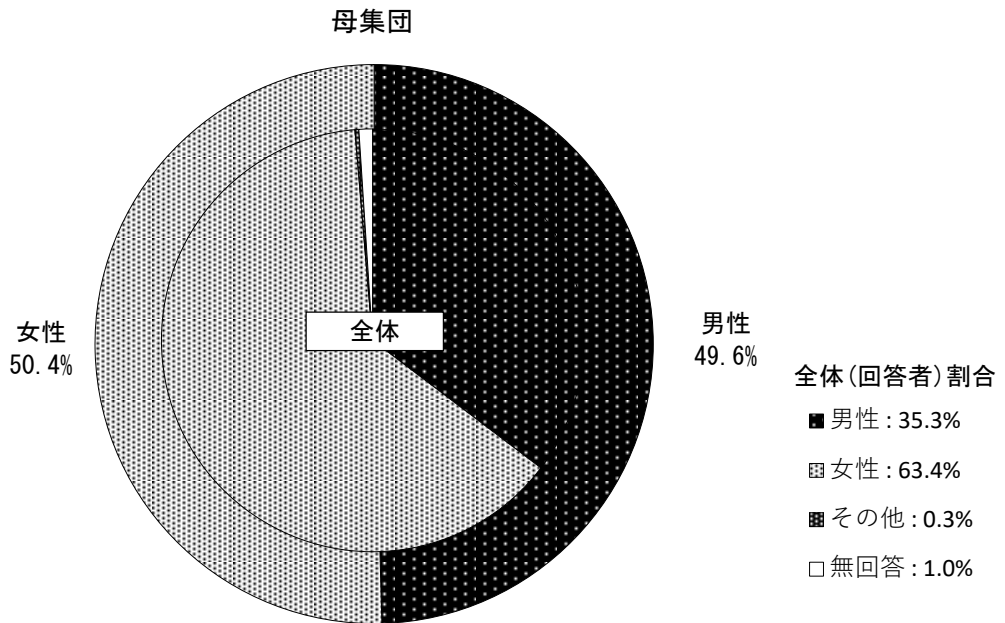
1 回答者の属性について

(1) 性別

母集団：大田区 12 歳以上の人口 (n=673,864) 令和 6 年 1 月 1 日現在

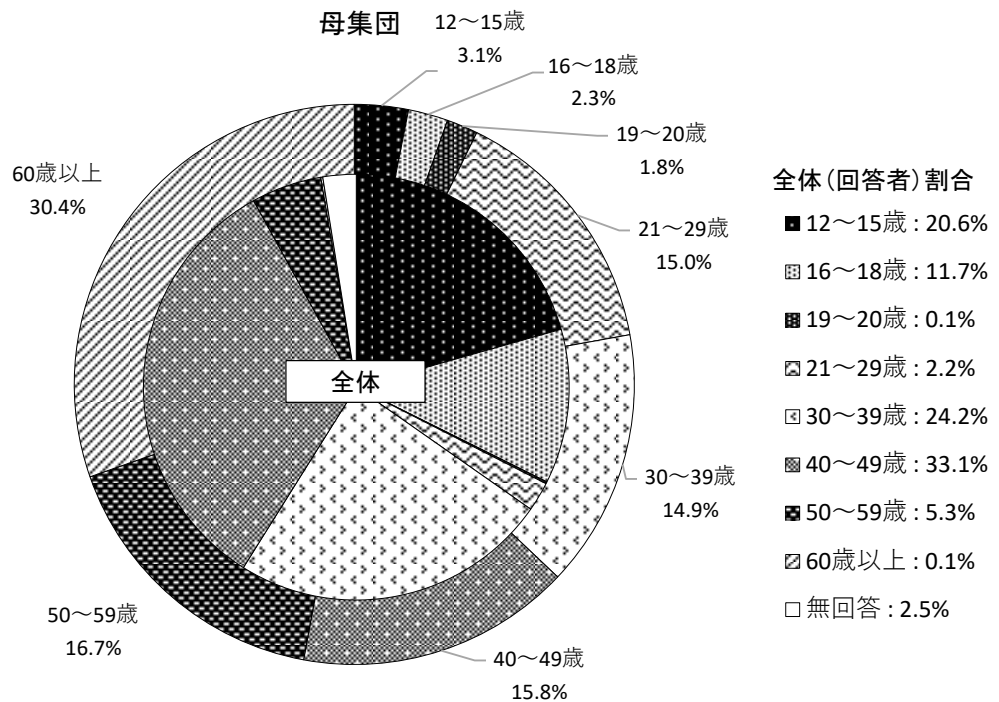
全体：有効回収数 (n=674)

全体 n=674



(2) 年齢

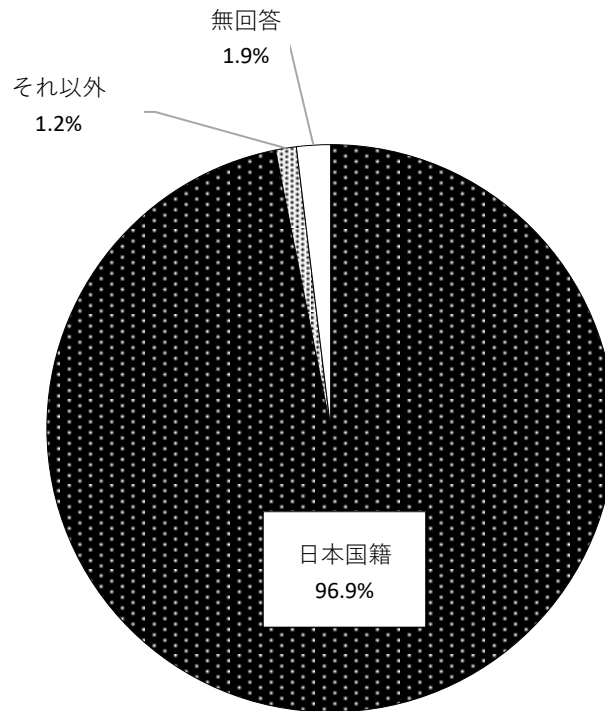
全体 n=674



【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和 6 年 1 月 1 日現在

(3) 国籍

全体 n=674

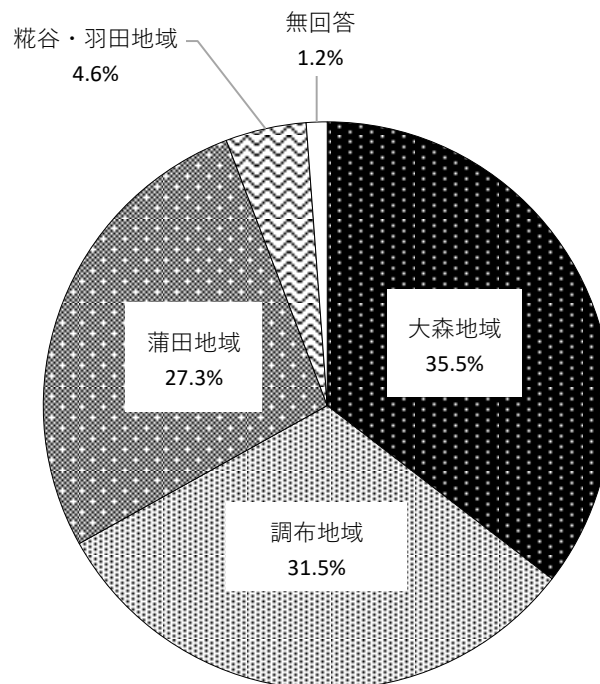


■ 日本国籍以外

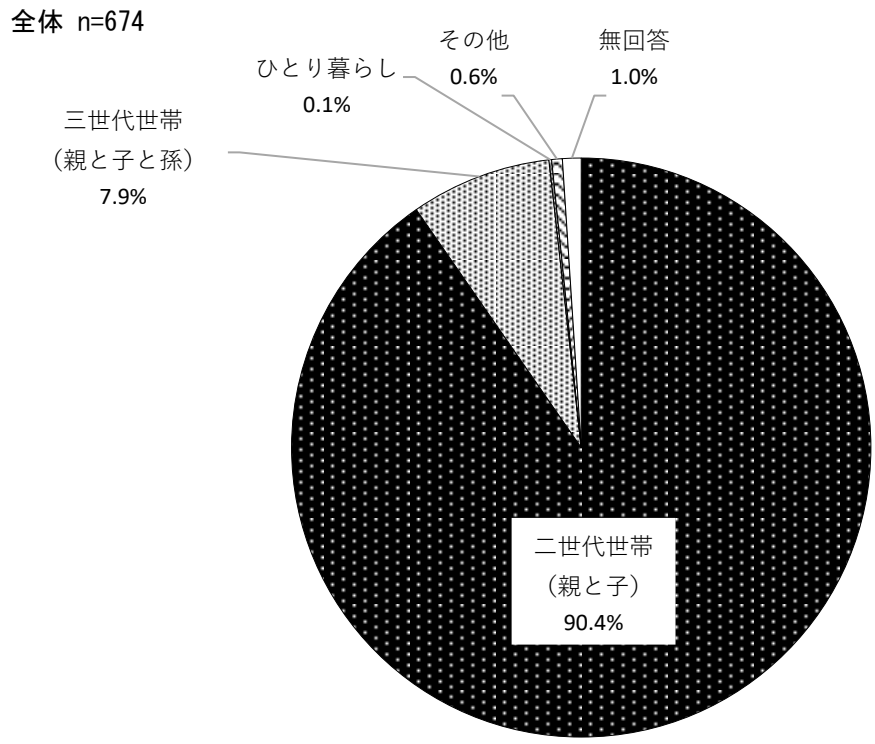
	中国	韓国	ウズベキスタン	ネパール	台湾	無回答
人数	3	1	1	1	1	1

(4) 居住地域

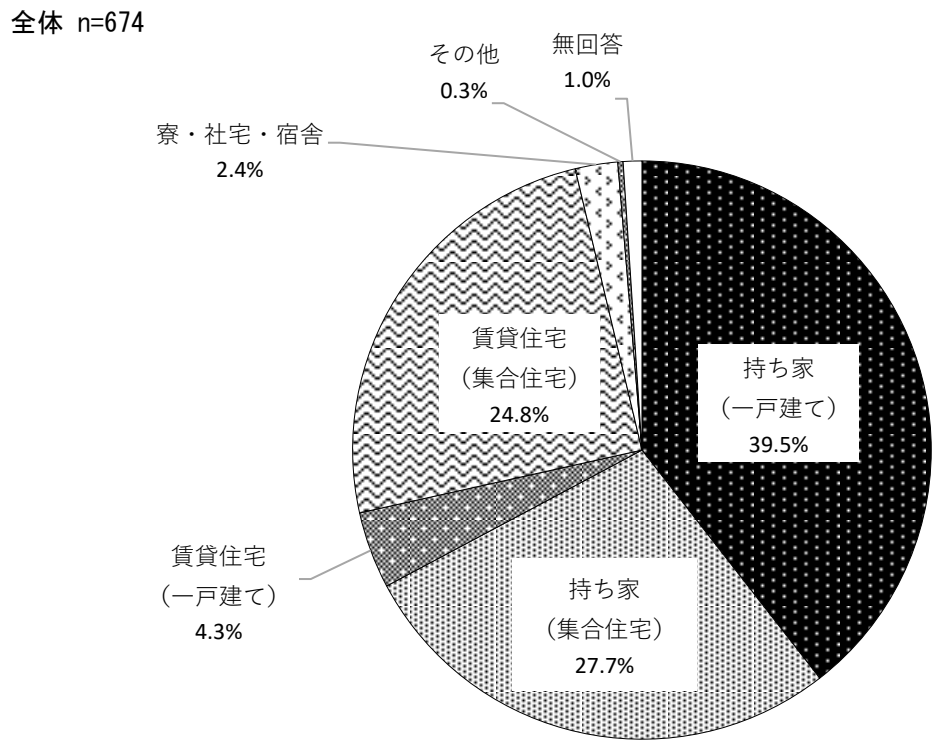
全体 n=674



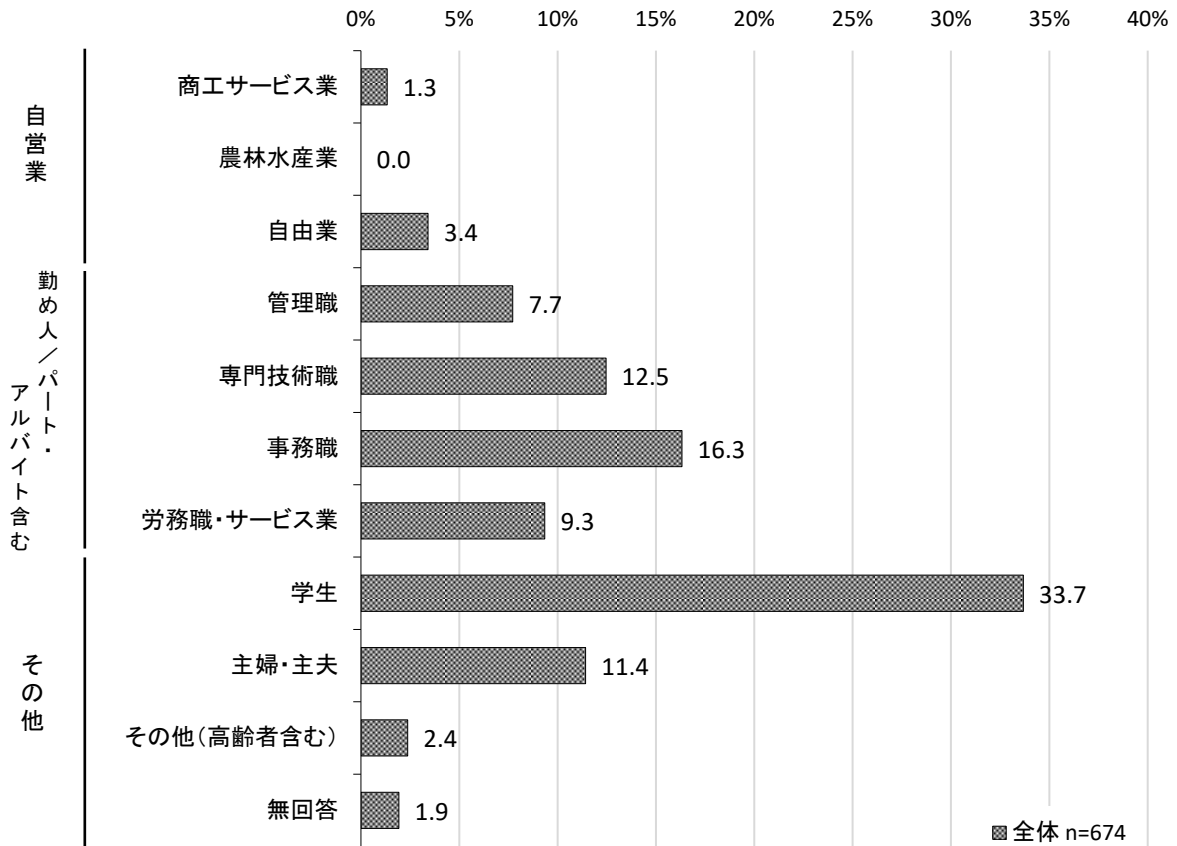
(5) 家族構成



(6) 住まいの種類

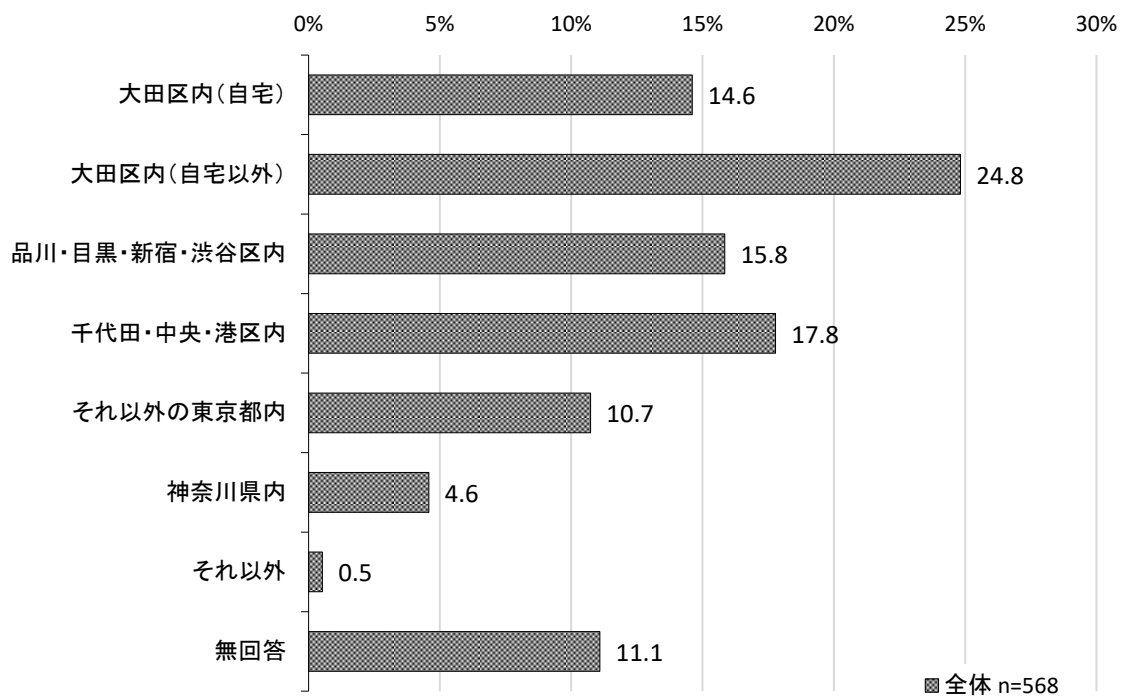


(7) 職業

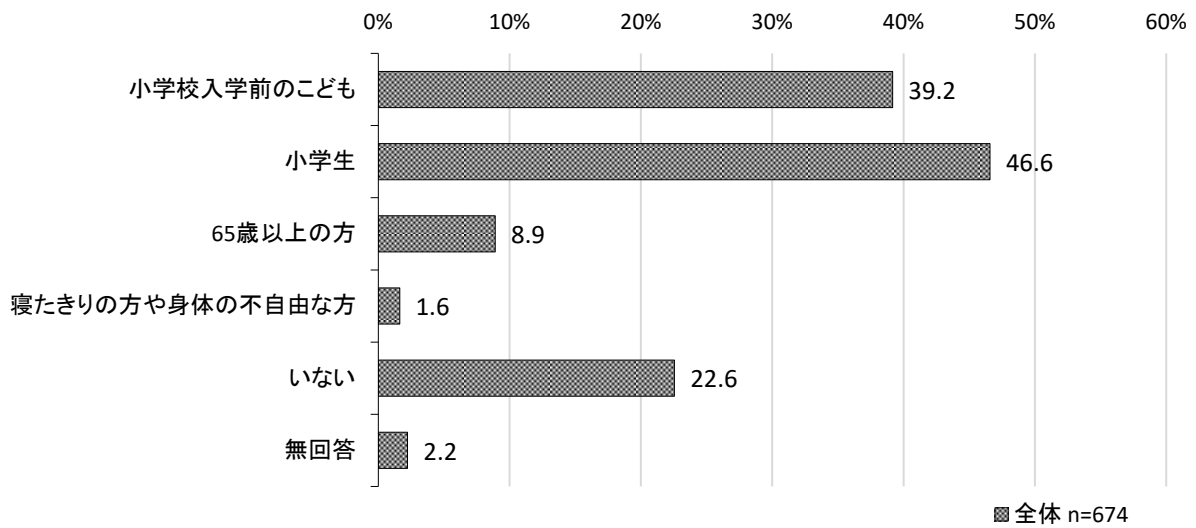


(8) 主な通勤・通学先

【(7) 職業で「自営業」「勤め人」「学生」と回答した方】

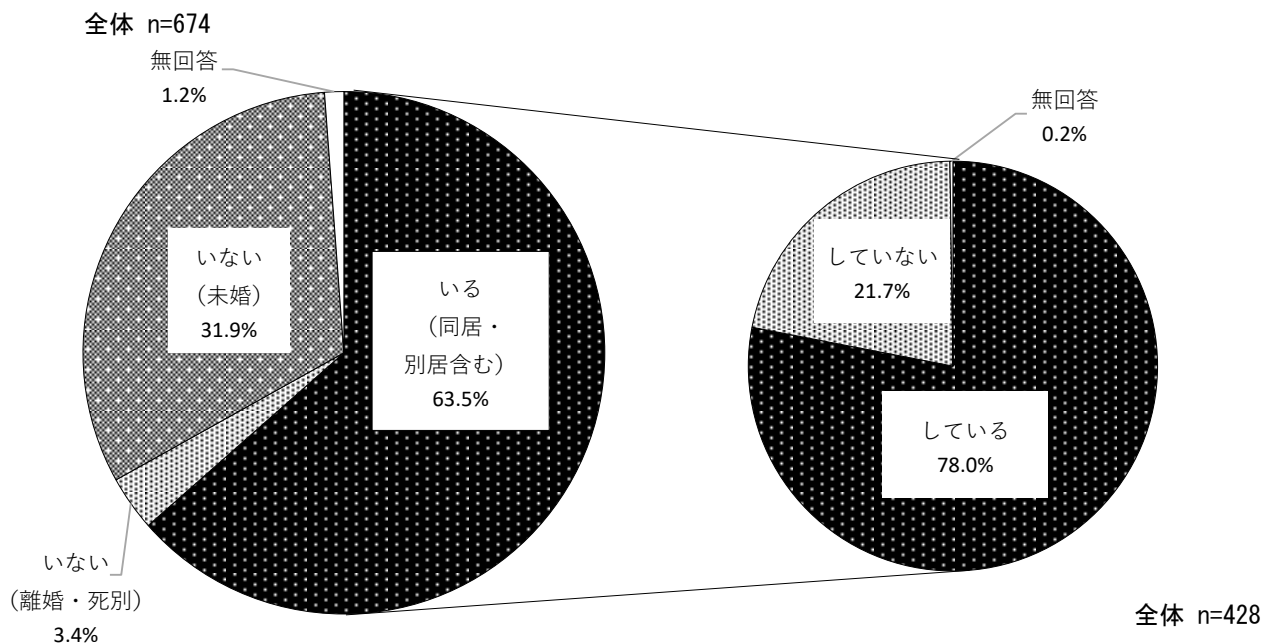


(9) 同居家族

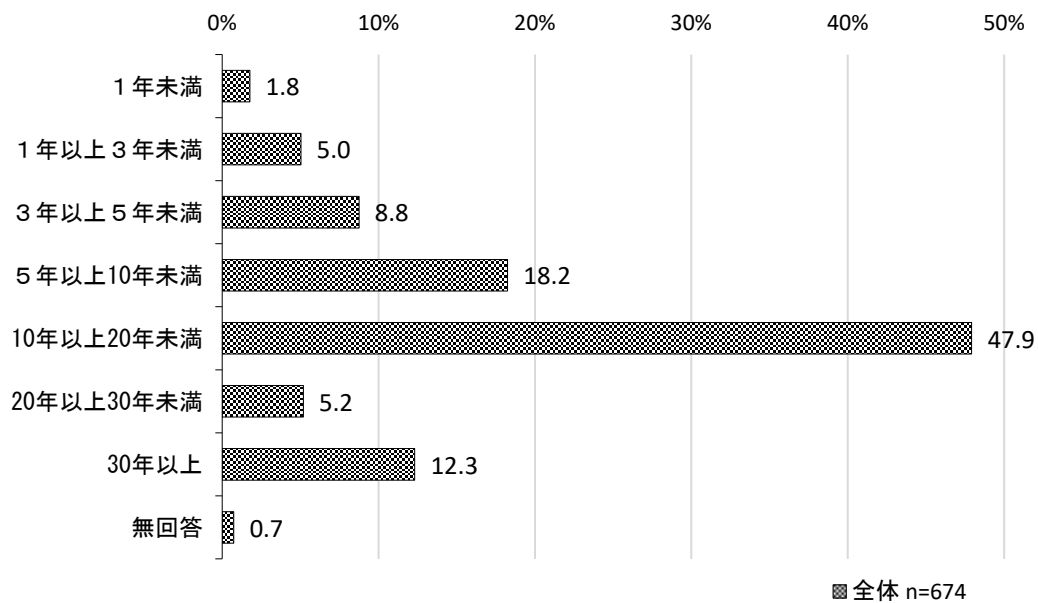


(10) 配偶者の有無及び (11) 共働きの状況

【(10) 配偶者の有無で「いる(同居・別居含む)」と回答した方】



(12) 居住年数



2 災害時の避難等について

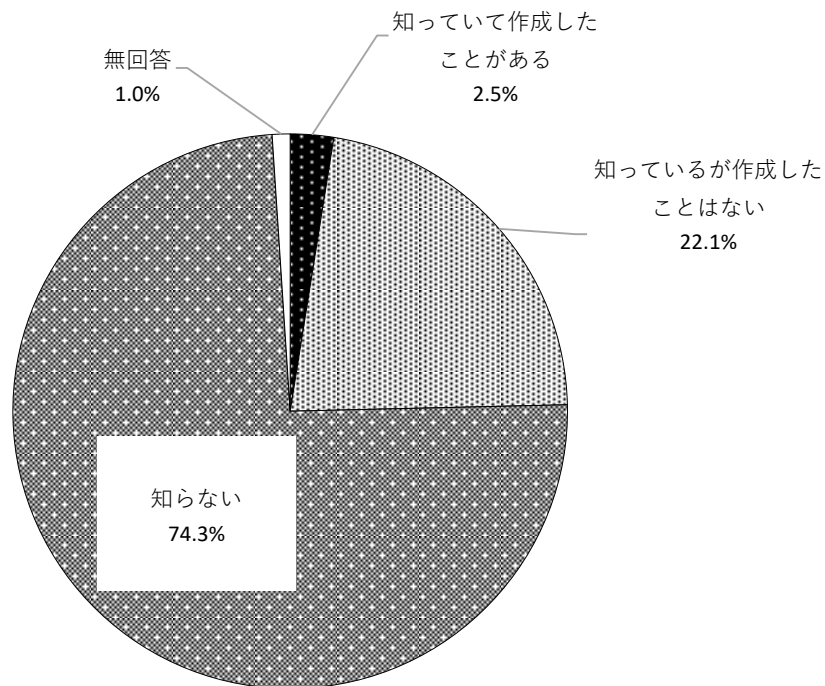
(1) 「マイ・タイムライン」の認知度

◇ 《知っている》（「知っているが作成したことがある」、「知っているが作成したことはない」の合計値）は2割前半となっている

問1 マイ・タイムラインを知っていますか。（1つのみ）

“マイ・タイムライン”の認知度については、「知っているが作成したことがある」、「知っているが作成したことはない」の合計値《知っている》が24.6%である一方で、「知らない」が74.3%と「知らない」が49.7ポイント上回っている。

全体 n=674

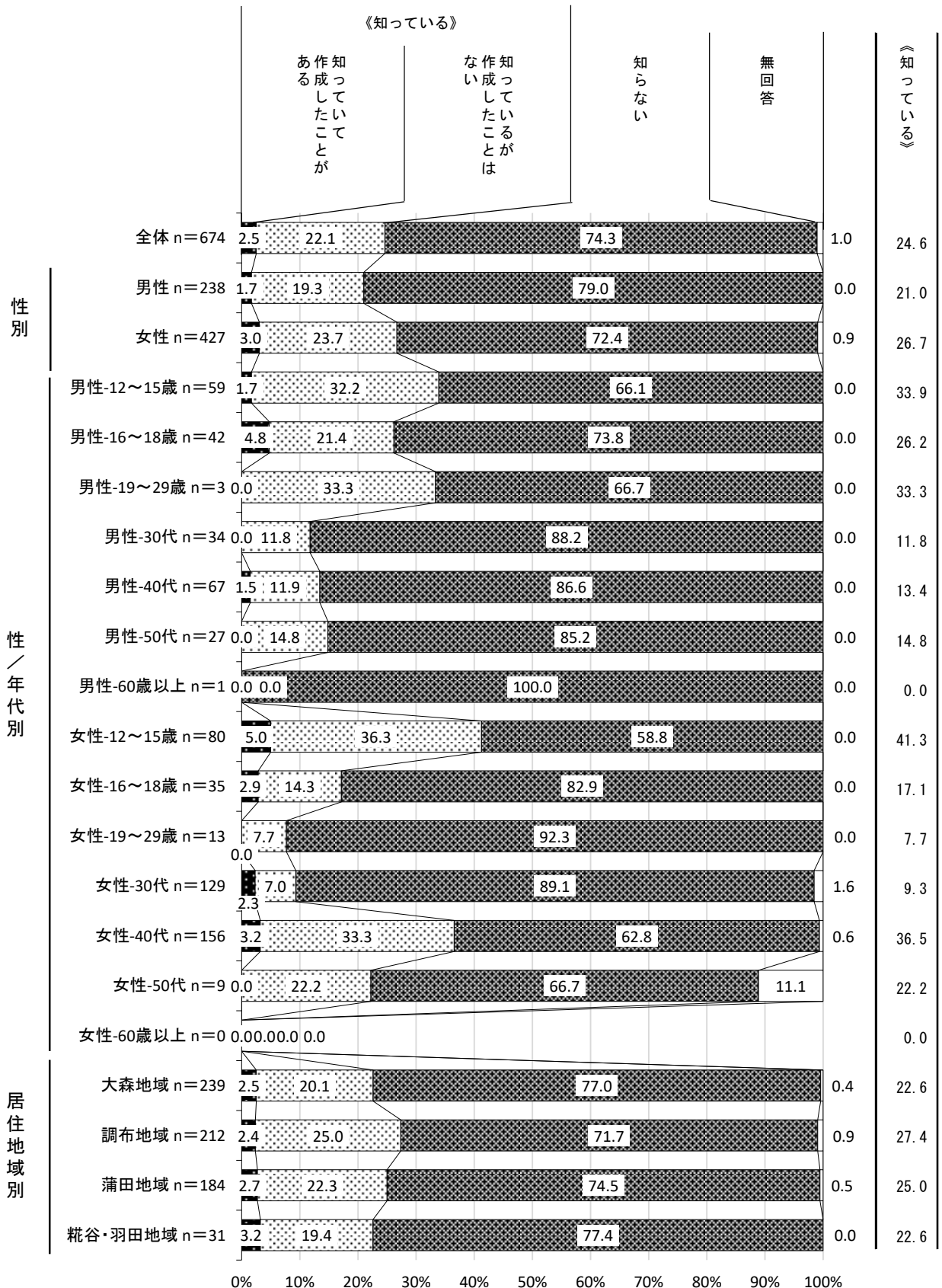


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が 21.0%、女性が 26.7%と、女性が 5.7 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では 12～15 歳で 3 割前半、女性では 12～15 歳で 4 割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は調布地域で 2 割後半と高くなっている。



(2) 「マイ・タイムライン」の作成方法

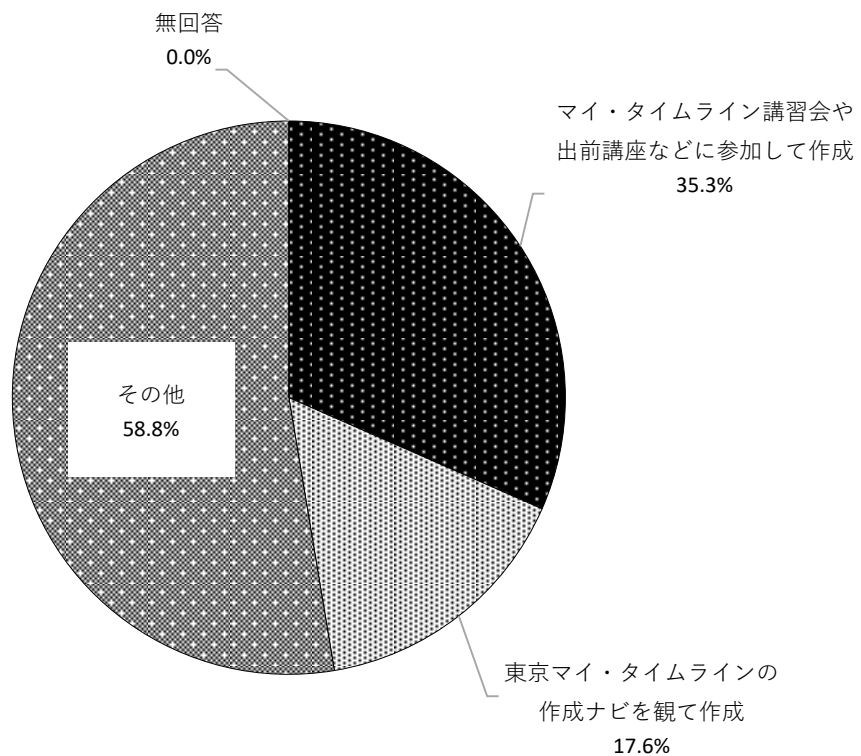
◇「マイ・タイムライン講習会や出前講座などに参加して作成」が3割半ばとなっている

【問1で「1 知っていて作成したことがある」と回答した方に伺います。】

問 1-1 どのように作成しましたか。(複数選択可)

“マイ・タイムライン”の作成方法については、「マイ・タイムライン講習会や出前講座などに参加して作成」が35.3%で最も高く、次いで「東京マイ・タイムラインの作成ナビを観て作成」が17.6%となっている。

全体 n=17



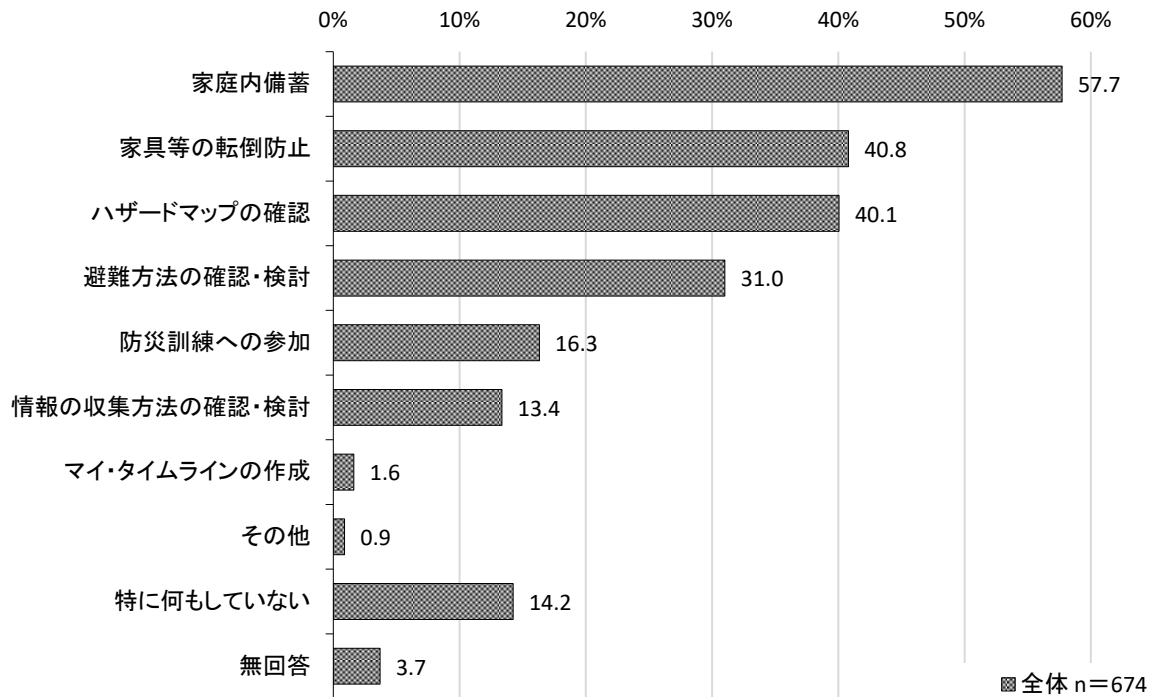
(3) 災害から身を守るための取り組み

◇「家庭内備蓄」が5割後半で最も高くなっている

問2 災害から身を守るためにどのような取り組みをしていますか。(複数選択可)

災害から身を守るための取り組みについては、「家庭内備蓄」が57.7%で最も高く、次いで「家具等の転倒防止」が40.8%、「ハザードマップの確認」が40.1%となっている。

なお、「特に何もしていない」は14.2%となっている。

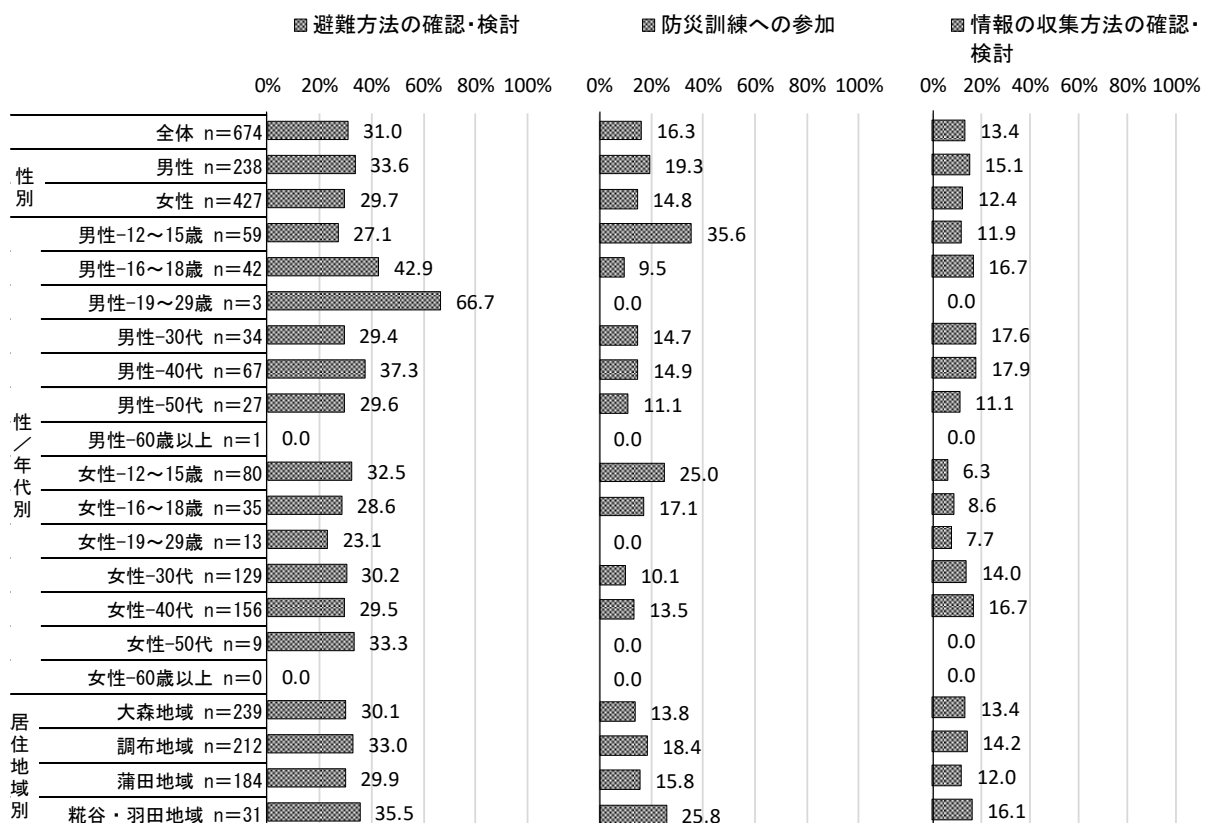
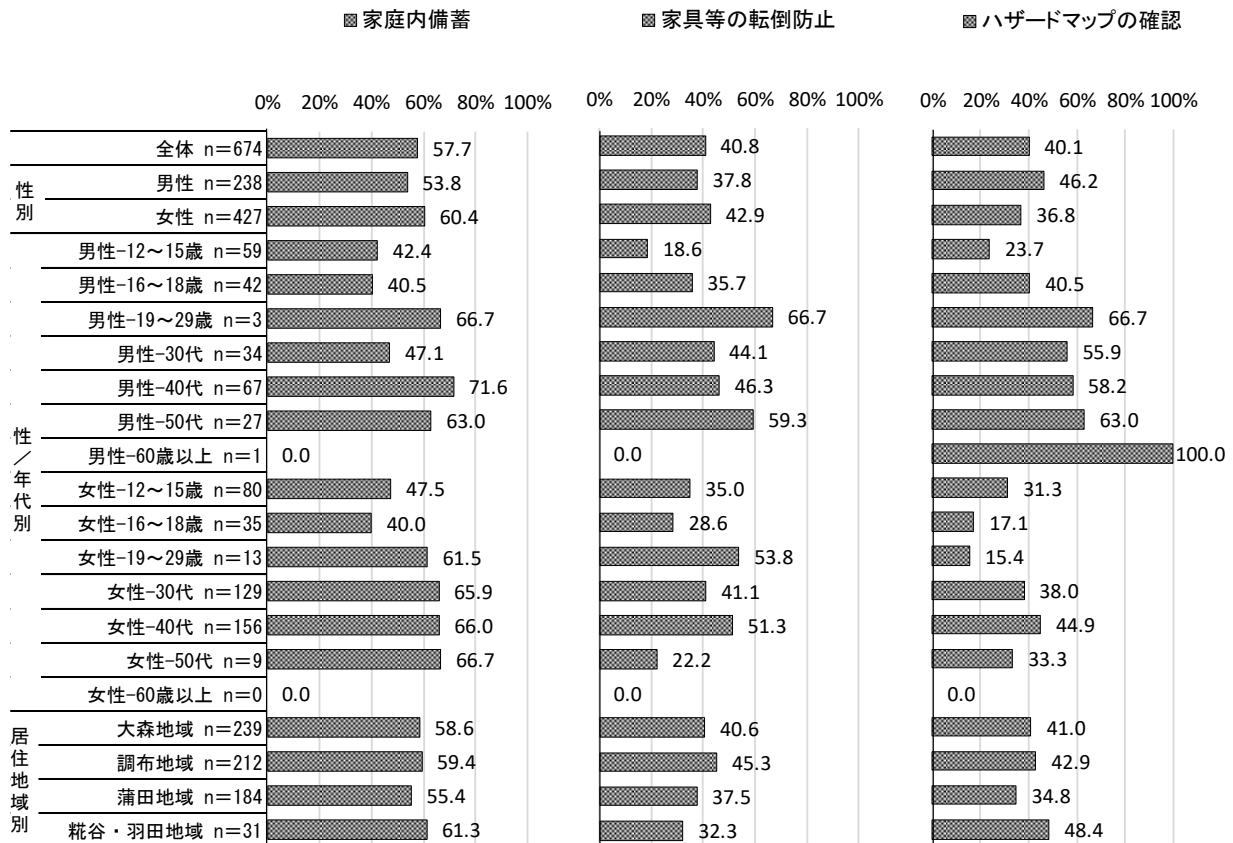


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「家庭内備蓄」が最も高く、男性が53.8%、女性が60.4%と、女性が6.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「家庭内備蓄」は男性では40代で7割前半、女性では30代、40代、50代で6割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「家庭内備蓄」が最も高くなっている。

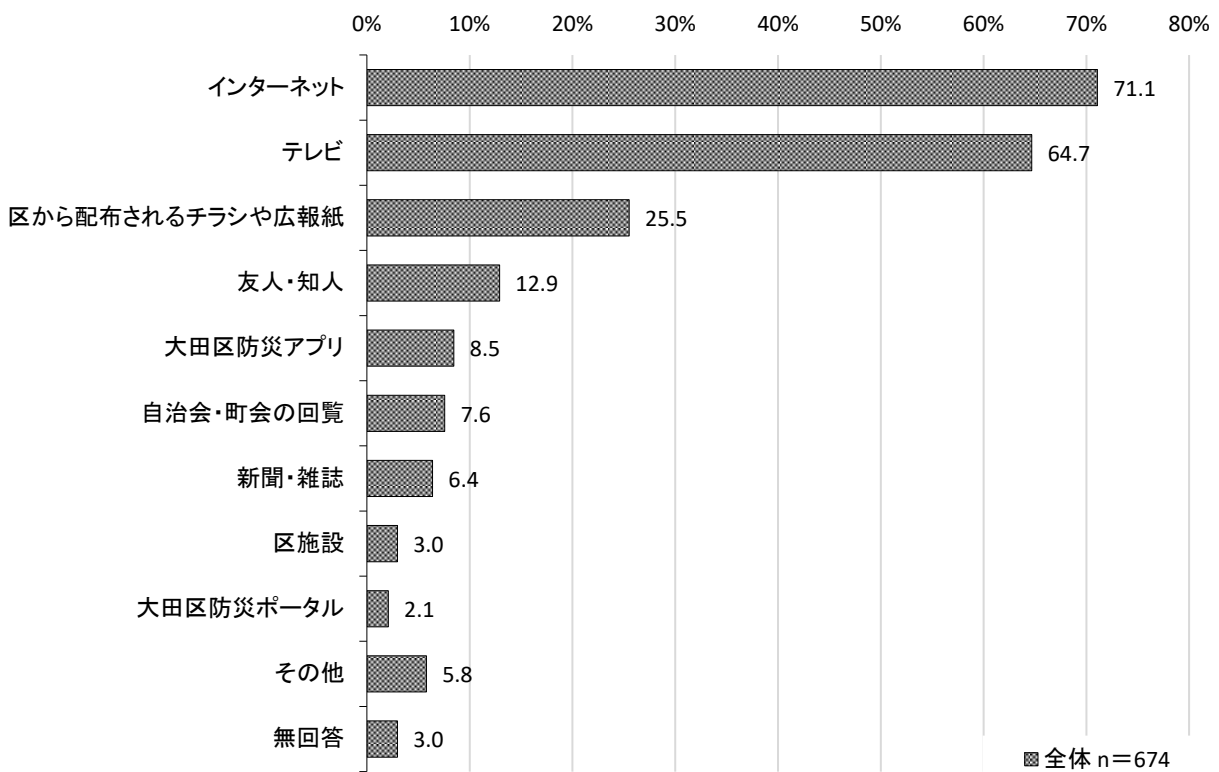


(4) 防災に関する情報の収集方法

◇「インターネット」が7割前半で最も高くなっている

問3 防災に関する情報をどのように収集していますか。(複数選択可)

防災に関する情報の収集方法については、「インターネット」が71.1%で最も高く、次いで「テレビ」が64.7%、「区から配布されるチラシや広報紙」が25.5%となっている。

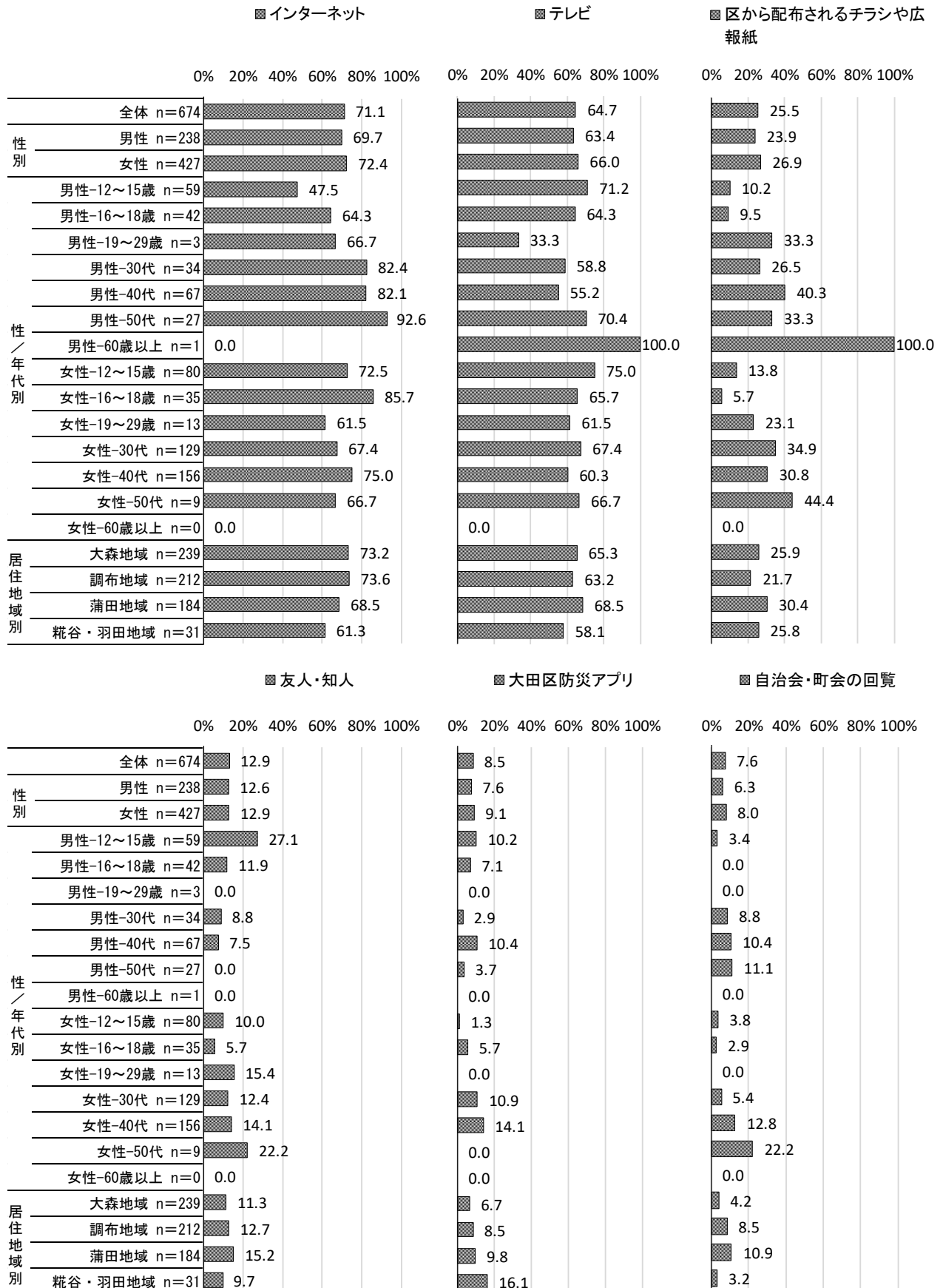


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別で見ると、男性、女性ともに「インターネット」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、「インターネット」は男性では30代、40代で8割前半、50代で9割前半、女性では16～18歳で8割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな差はみられない。

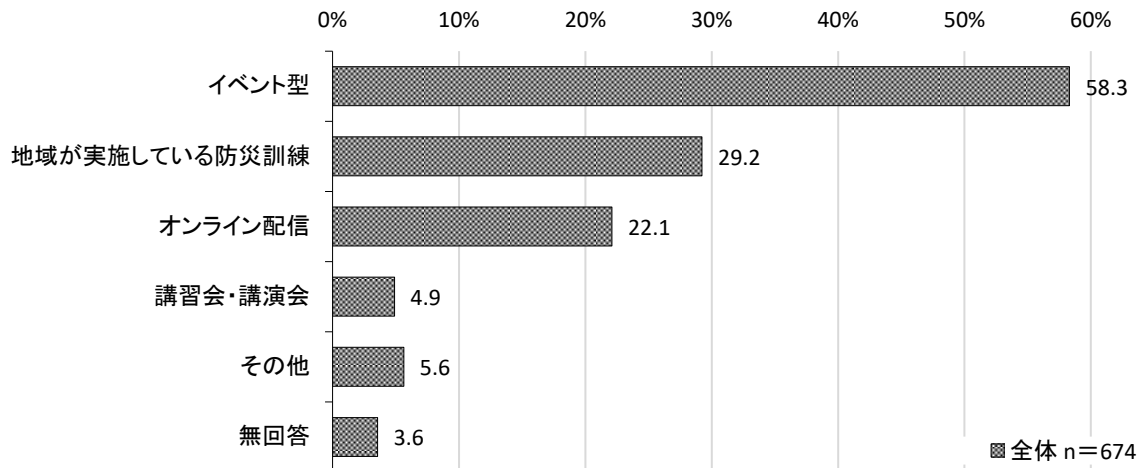


(5) 参加したいと思う防災訓練の形式

◇「イベント型」が5割後半で最も高くなっている

問4 どのような防災訓練等に参加したいですか。(複数選択可)

参加したいと思う防災訓練の形式については、「イベント型」が58.3%で最も高く、次いで「地域が実施している防災訓練」が29.2%、次いで「オンライン配信」が22.1%となっている。

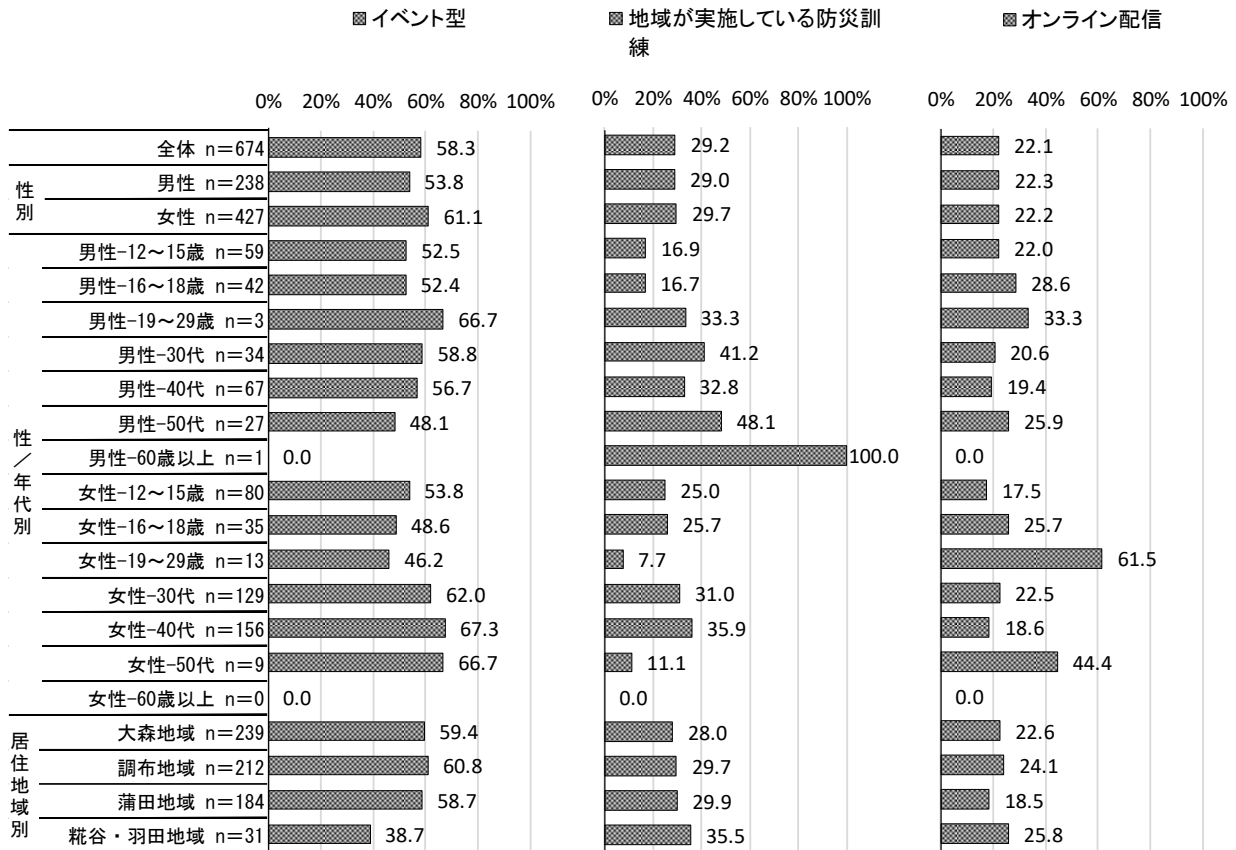


■性別・性／年代別・居住地域別

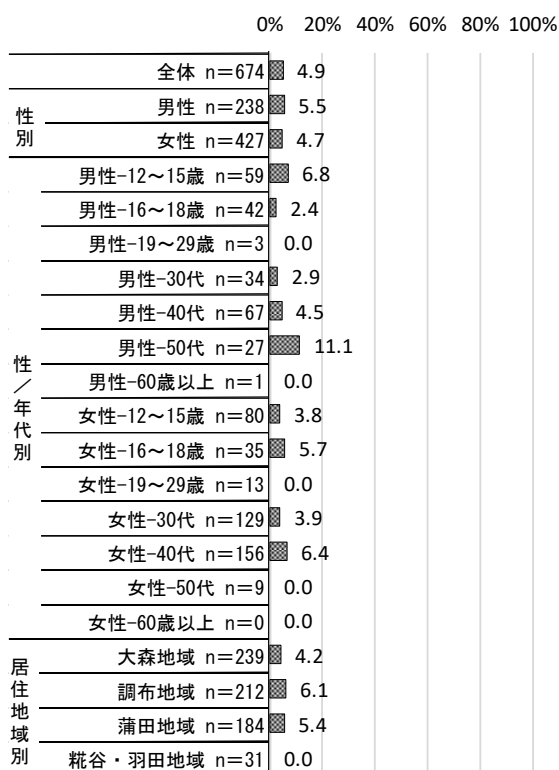
性別で見ると、男性、女性ともに「イベント型」が最も高く、男性が53.8%、女性が61.1%と、女性が7.3ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「イベント型」は男性では30代で5割後半、女性では40代で6割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「イベント型」が最も高くなっている。



■講習会・講演会



3 家庭生活について

※この項目（問5～問7）は、未就学児・小学生の保護者の方が回答してください。中学生・高校生の方は次の「3. 公園について」に進んでください。

（1）コロナ後の家事や育児の負担感

◇「負担感が変わった」は約2割となっている

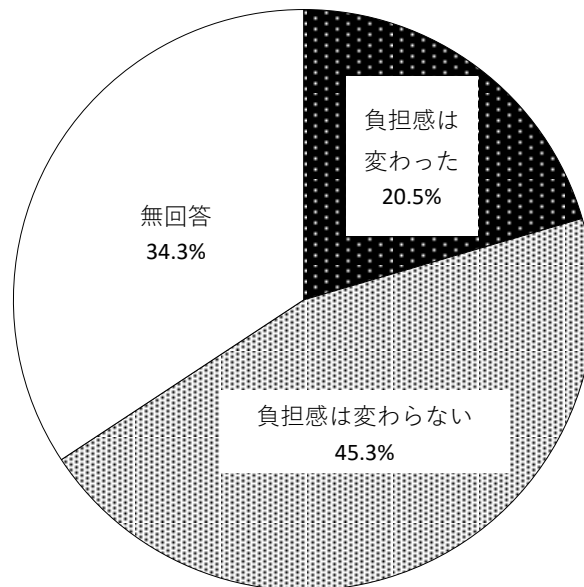
問5 コロナ禍と現在とで家事や育児の負担感は変わりましたか。また子育てで身近に相談できる人・機関はありますか。

※該当するものをそれぞれ選択してください。（それぞれ1つのみ）

[負担感について]

コロナ後の家事や育児の負担感については、「負担感が変わった」が20.5%、「負担感が変わらない」が45.3%と、「負担感が変わらない」が24.8ポイント上回っている。

全体 n=674

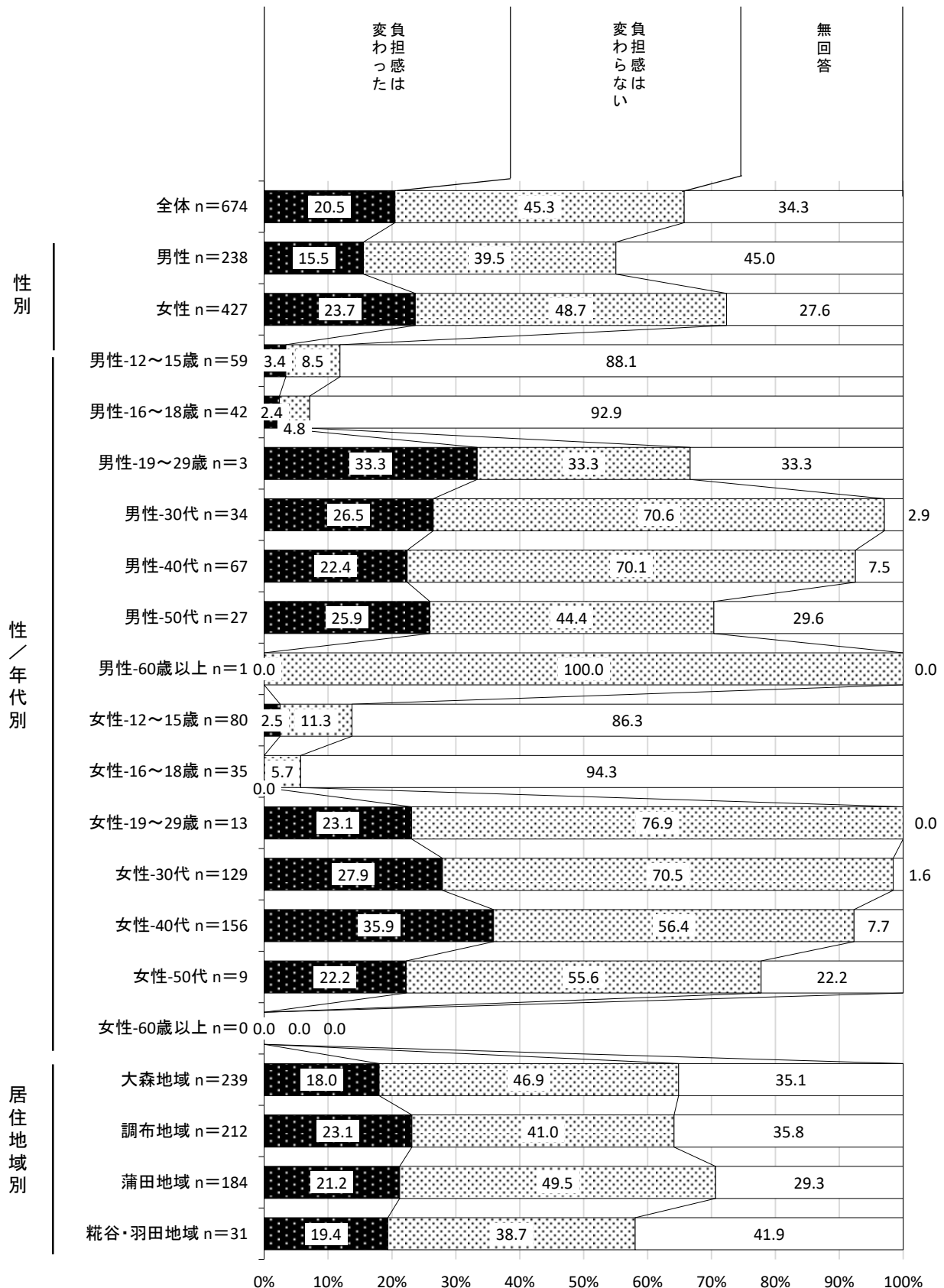


■性別・性／年代別・居住地域別_負担感について

性別でみると、「負担感が変わった」は男性が15.5%、女性が23.7%と、女性が8.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「負担感が変わった」は女性40代で3割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「負担感が変わった」は調布地域で2割前半と高くなっている。



(2) 子育てに関する相談先の有無

◇「相談できる人（機関）がいる（ある）」は2割前半となっている

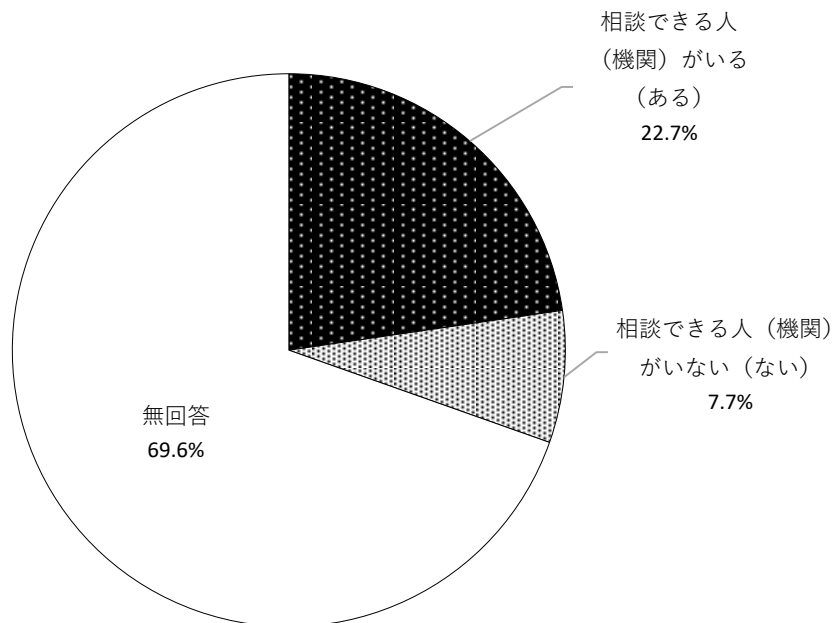
問5 コロナ禍と現在とで家事や育児の負担感は変わりましたか。また子育てで身近に相談できる人・機関はありますか。

※該当するものをそれぞれ選択してください。（それぞれ1つのみ）

[相談できる人・機関について]

子育てに関する相談先の有無については、「相談できる人（機関）がいる（ある）」が22.7%、「相談できる人（機関）がない（ない）」が7.7%と、「相談できる人（機関）がいる（ある）」が15ポイント上回っている。

全体 n=674

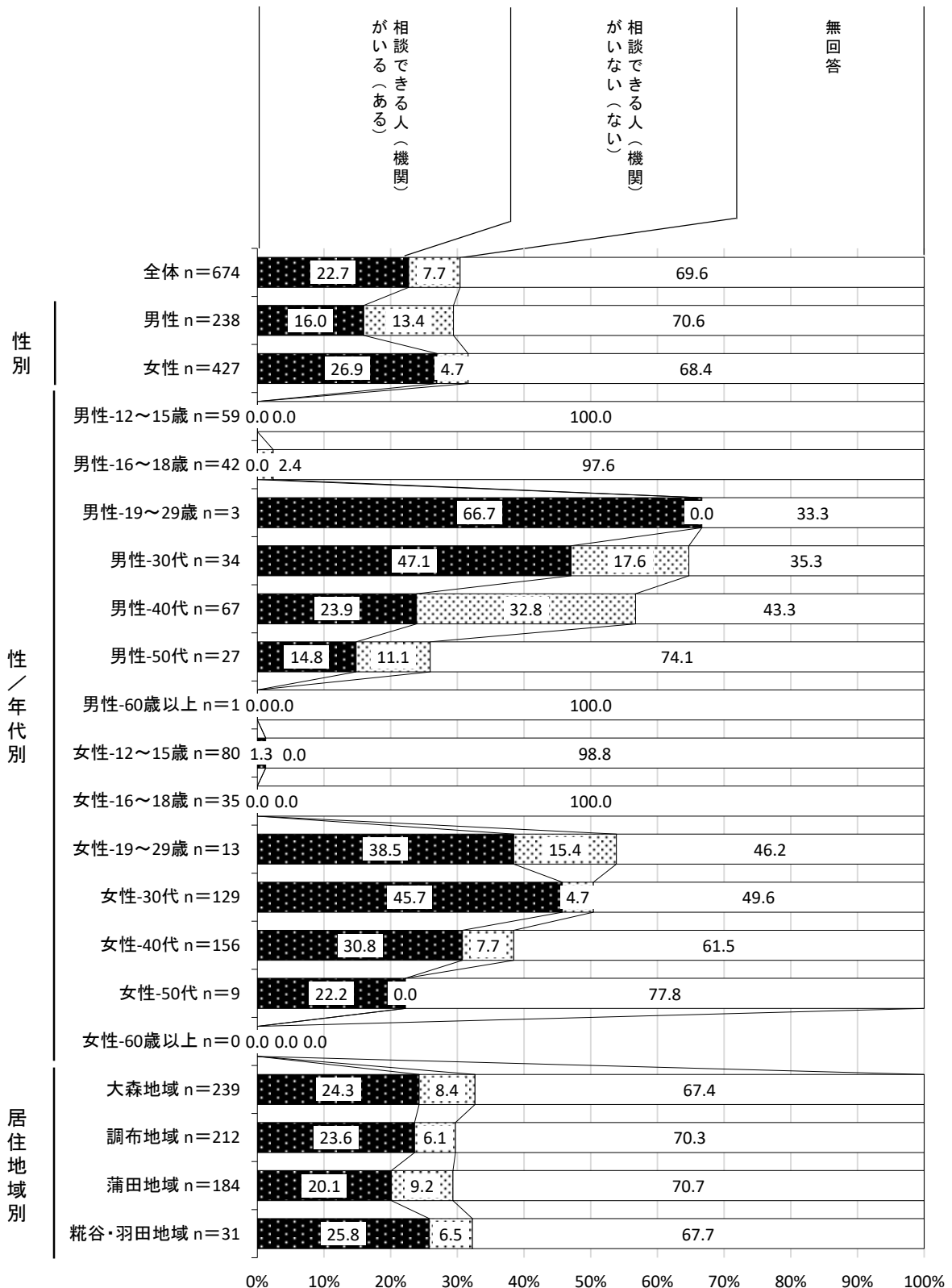


■性別・性／年代別・居住地域別_相談できる人・機関について

性別でみると、「相談できる人（機関）がいる（ある）」は男性が16.0%、女性が26.9%と、女性が10.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「相談できる人（機関）がいる（ある）」は男性では30代で4割後半、女性では30代で4割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



(3) 「子ども家庭支援センター」の認知度

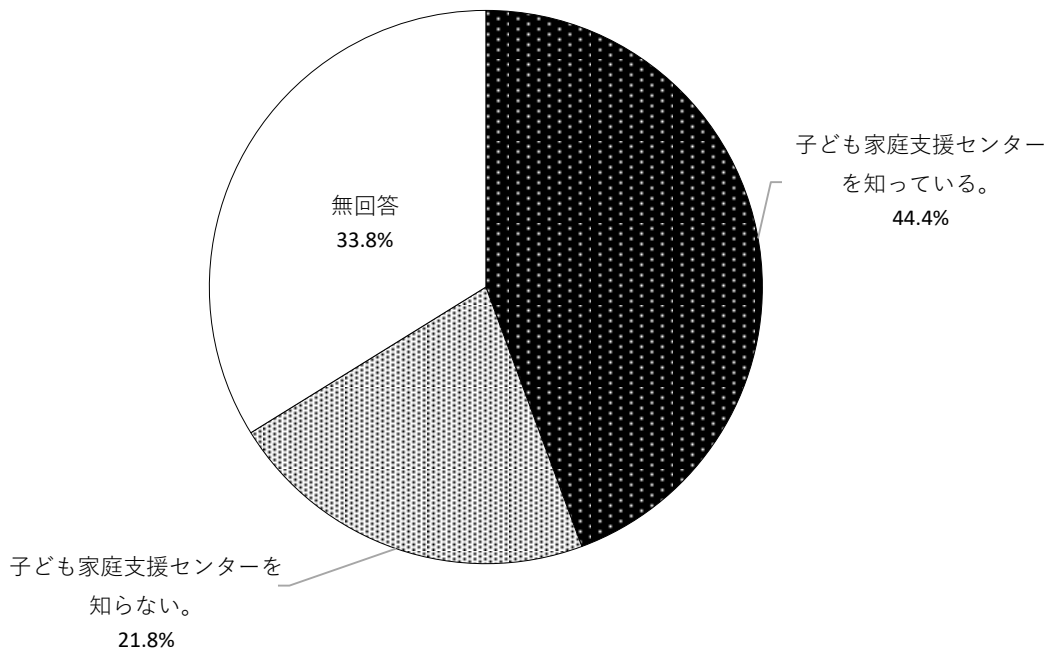
◇「子ども家庭支援センターを知っている。」は4割前半となっている

問6 子ども家庭支援センターでは、子育ての相談や事業を実施しています。また、こどもからの相談も受けています。子ども家庭支援センターの事業や利用状況について、教えてください。 ※該当するものをそれぞれ選択してください。(それぞれ1つのみ)

[子ども家庭支援センターの認知度]

“子ども家庭支援センター”の認知度については、「子ども家庭支援センターを知っている。」が44.4%、「子ども家庭支援センターを知らない。」が21.8%と、「子ども家庭支援センターを知っている。」が22.6ポイント上回っている。

全体 n=674

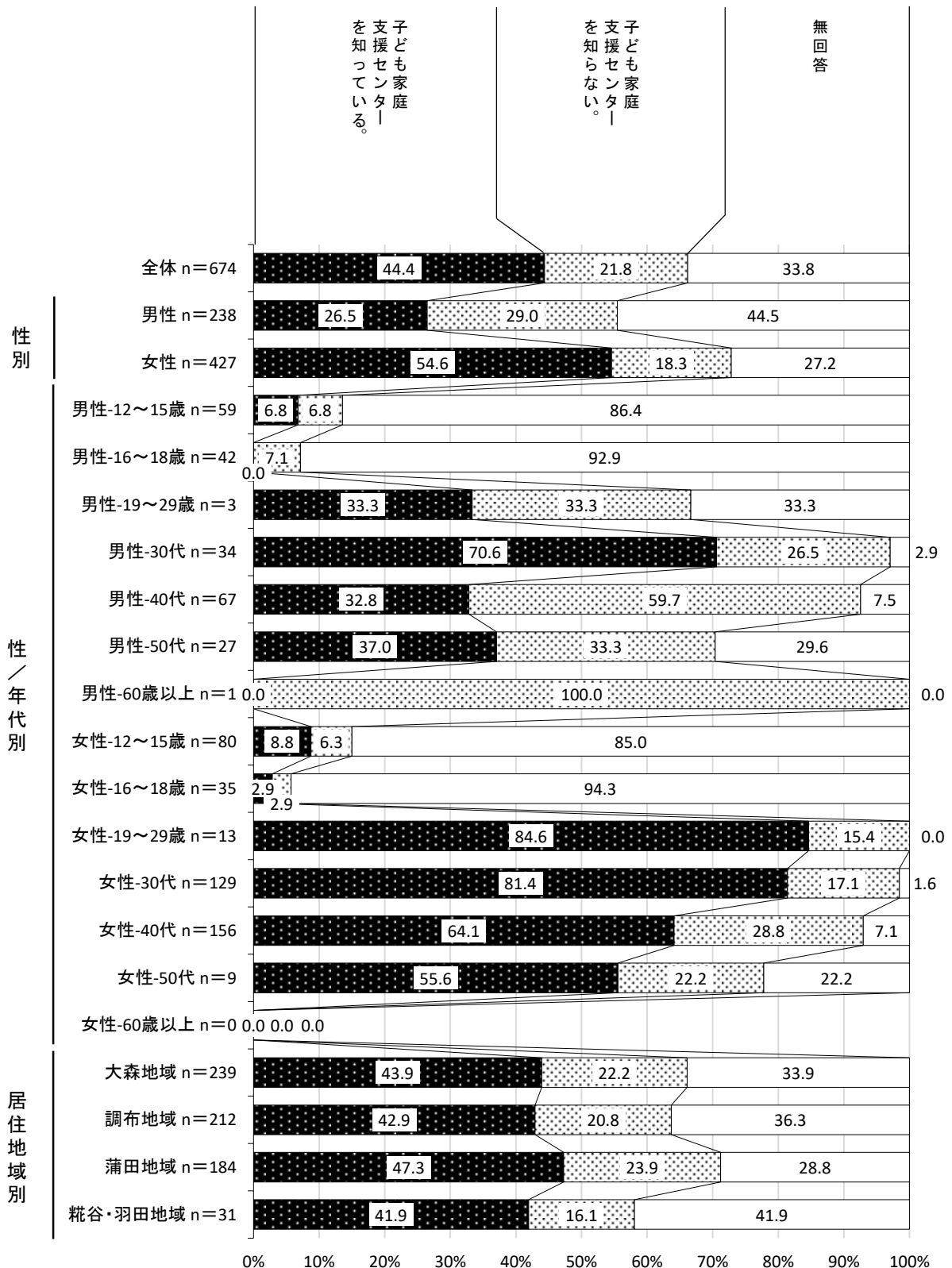


■性別・性／年代別・居住地域別_子ども家庭支援センターについて

性別でみると、「子ども家庭支援センターを知っている。」は男性が26.5%、女性が54.6%と、女性が28.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「子ども家庭支援センターを知っている。」は男性では30代で7割前半、女性では30代で8割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大きな差はみられない。



(4) 「子ども家庭支援センター」の事業の利用状況について

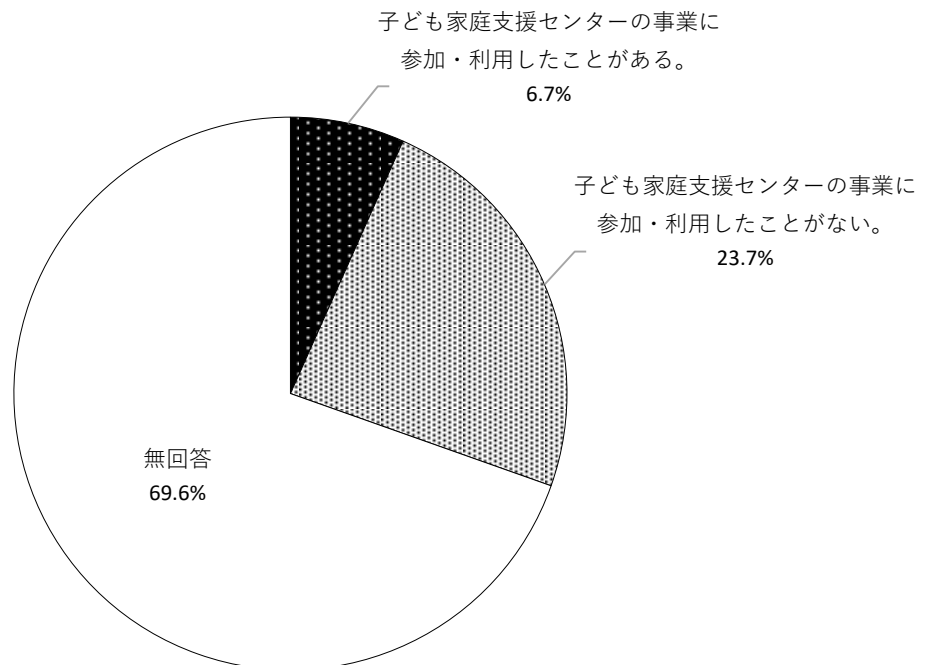
◇「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがある。」は1割未満となっている

問6 子ども家庭支援センターでは、子育ての相談や事業を実施しています。また、こどもからの相談も受けています。子ども家庭支援センターの事業や利用状況について、教えてください。 ※該当するものをそれぞれ選択してください。(それぞれ1つのみ)

[子ども家庭支援センターの事業の利用状況について]

子ども家庭支援センターの事業の利用状況については、「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがある。」が6.7%である一方で、「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがない。」が23.7%と、「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがない。」が17ポイント上回っている。

全体 n=674

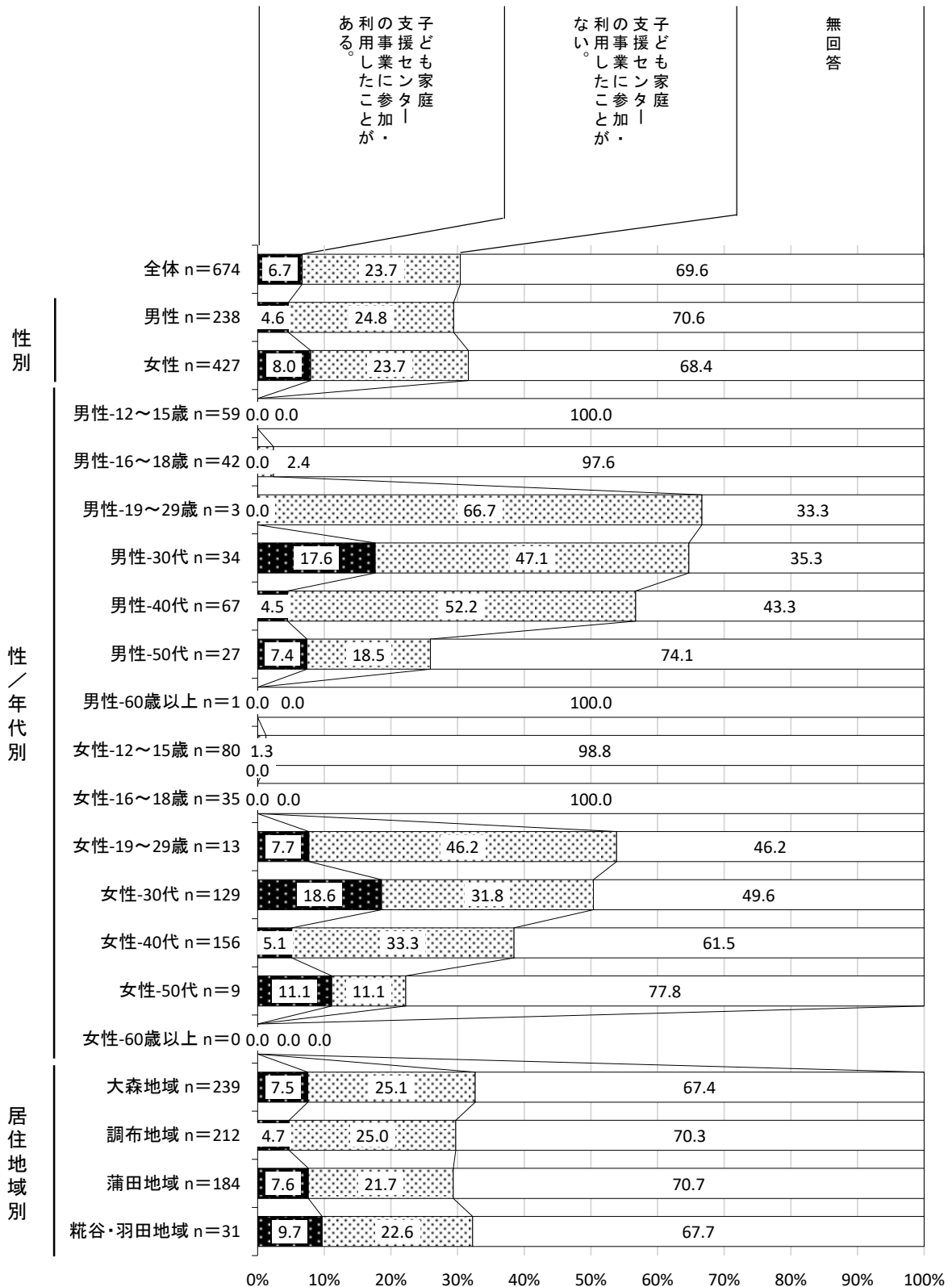


■性別・性／年代別・居住地域別_子ども家庭支援センターの事業の利用状況について

性別でみると、「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがある。」は男性 4.6%、女性 8.0%と、女性が3.4ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがある。」は男性、女性ともに30代で1割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「子ども家庭支援センターの事業に参加・利用したことがある。」は1割未満となっている。



(5) 「子ども家庭支援センター」でのこどもからの相談受付の認知度

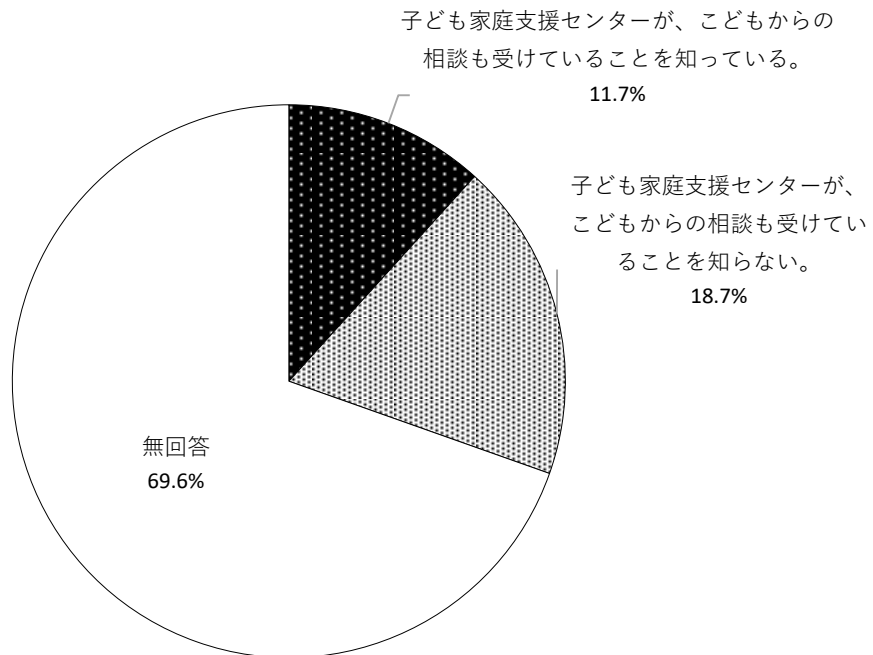
◇「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知っている。」は1割前半となっている

問6 子ども家庭支援センターでは、子育ての相談や事業を実施しています。また、こどもからの相談も受けています。子ども家庭支援センターの事業や利用状況について、教えてください。 ※該当するものをそれぞれ選択してください。(それぞれ1つのみ)

[子ども家庭支援センターでのこどもからの相談受付の認知度]

子ども家庭支援センターでのこどもからの相談受付の認知度については、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知っている。」が11.7%である一方で、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知らない。」が18.7%と、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知らない。」が7ポイント上回っている。

全体 n=674

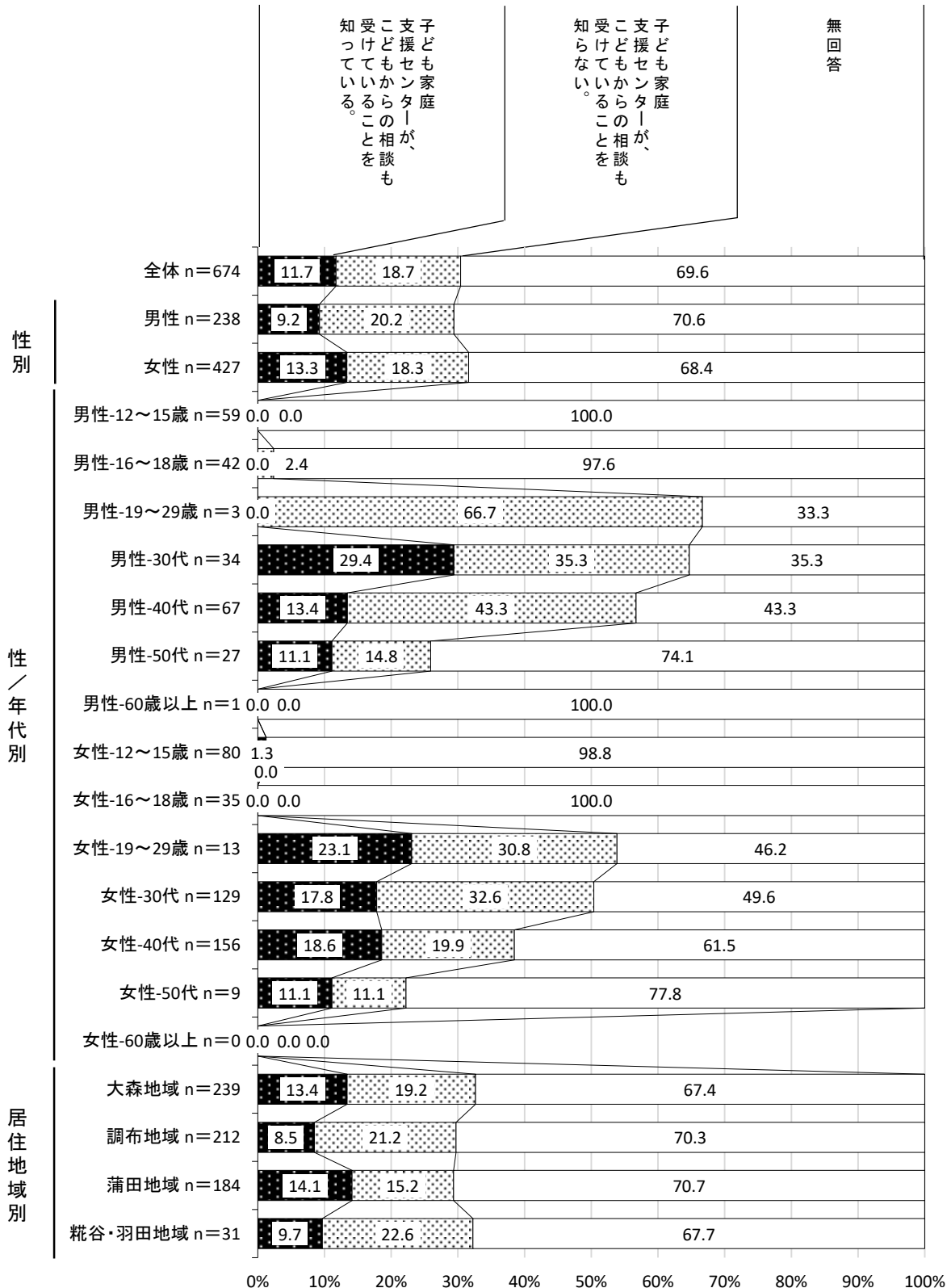


■性別・性／年代別・居住地域別_子ども家庭支援センターでのこどもからの相談受付の認知度

性別でみると、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知っている。」は男性が9.2%、女性が13.3%と、女性が4.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知っている。」は男性30代で2割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「子ども家庭支援センターが、こどもからの相談も受けていることを知っている。」は大森地域、蒲田地域で1割前半と高くなっている。



(6) 「子ども家庭支援センター」への相談について①

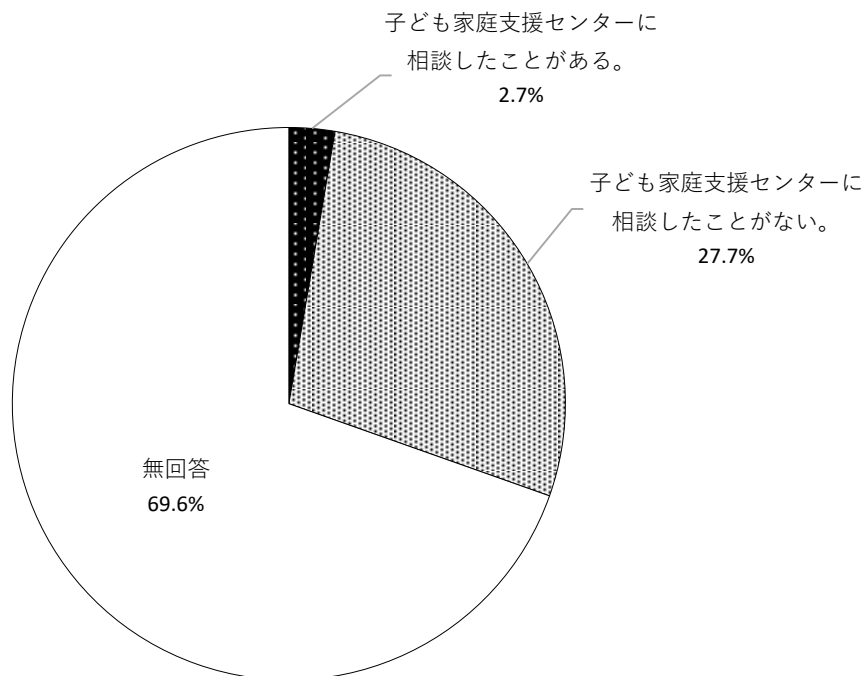
◇「子ども家庭支援センターに相談したことがある。」は1割未満となっている

問6 子ども家庭支援センターでは、子育ての相談や事業を実施しています。また、こどもからの相談も受けています。子ども家庭支援センターの事業や利用状況について、教えてください。 ※該当するものをそれぞれ選択してください。(それぞれ1つのみ)

[子ども家庭支援センターへの相談について①]

子ども家庭支援センターへの相談については、「子ども家庭支援センターに相談したことがある。」が2.7%である一方で、「子ども家庭支援センターに相談したことがない。」が27.7%と、「子ども家庭支援センターに相談したことがない。」が25ポイント上回っている。

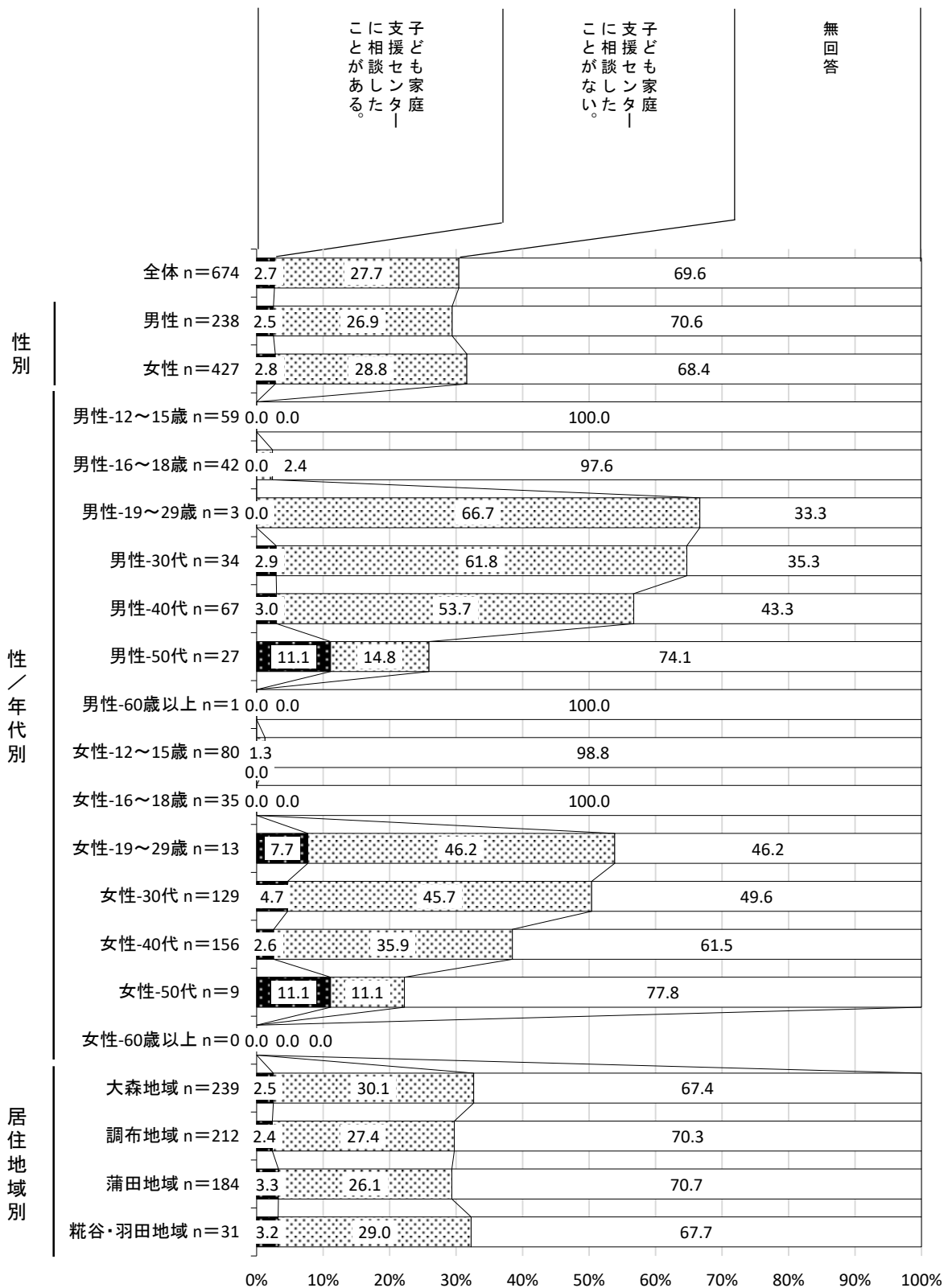
全体 n=674



■性別・性／年代別・居住地域別_子ども家庭支援センターへの相談について①

性別で見ると、大きな差はみられない。

居住地域別で見ると、すべての地域で「子ども家庭支援センターに相談したことがある。」は1割未満となっている。



(7)「子ども家庭支援センター」への相談について②

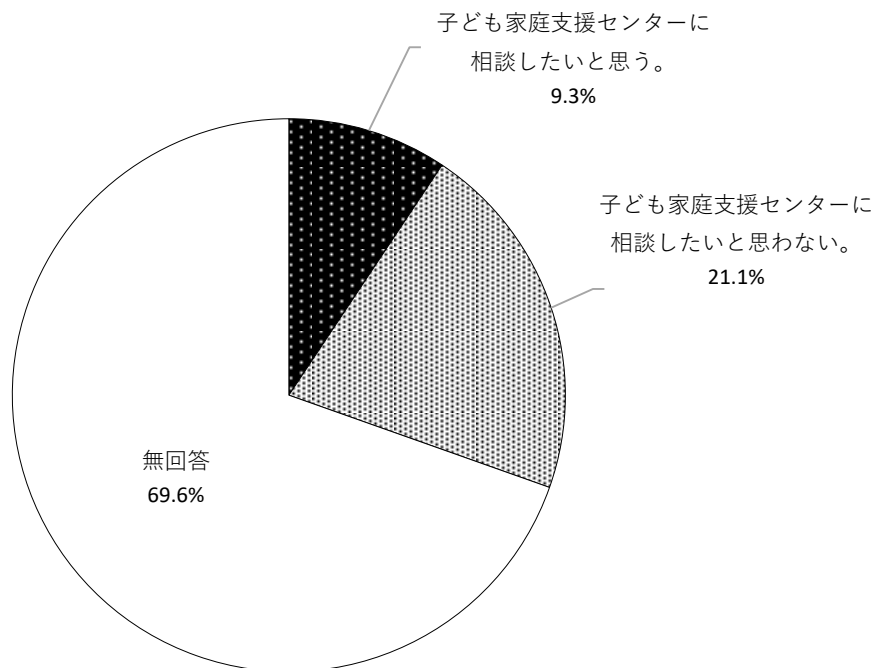
◇「子ども家庭支援センターに相談したいと思う。」は1割未満となっている

問6 子ども家庭支援センターでは、子育ての相談や事業を実施しています。また、こどもからの相談も受けています。子ども家庭支援センターの事業や利用状況について、教えてください。 ※該当するものをそれぞれ選択してください。(それぞれ1つのみ)

[子ども家庭支援センターへの相談について②]

子ども家庭支援センターへの相談については、「子ども家庭支援センターに相談したいと思う。」が9.3%である一方で、「子ども家庭支援センターに相談したいと思わない。」が21.1%と、「子ども家庭支援センターに相談したいと思わない。」が11.8ポイント上回っている。

全体 n=674

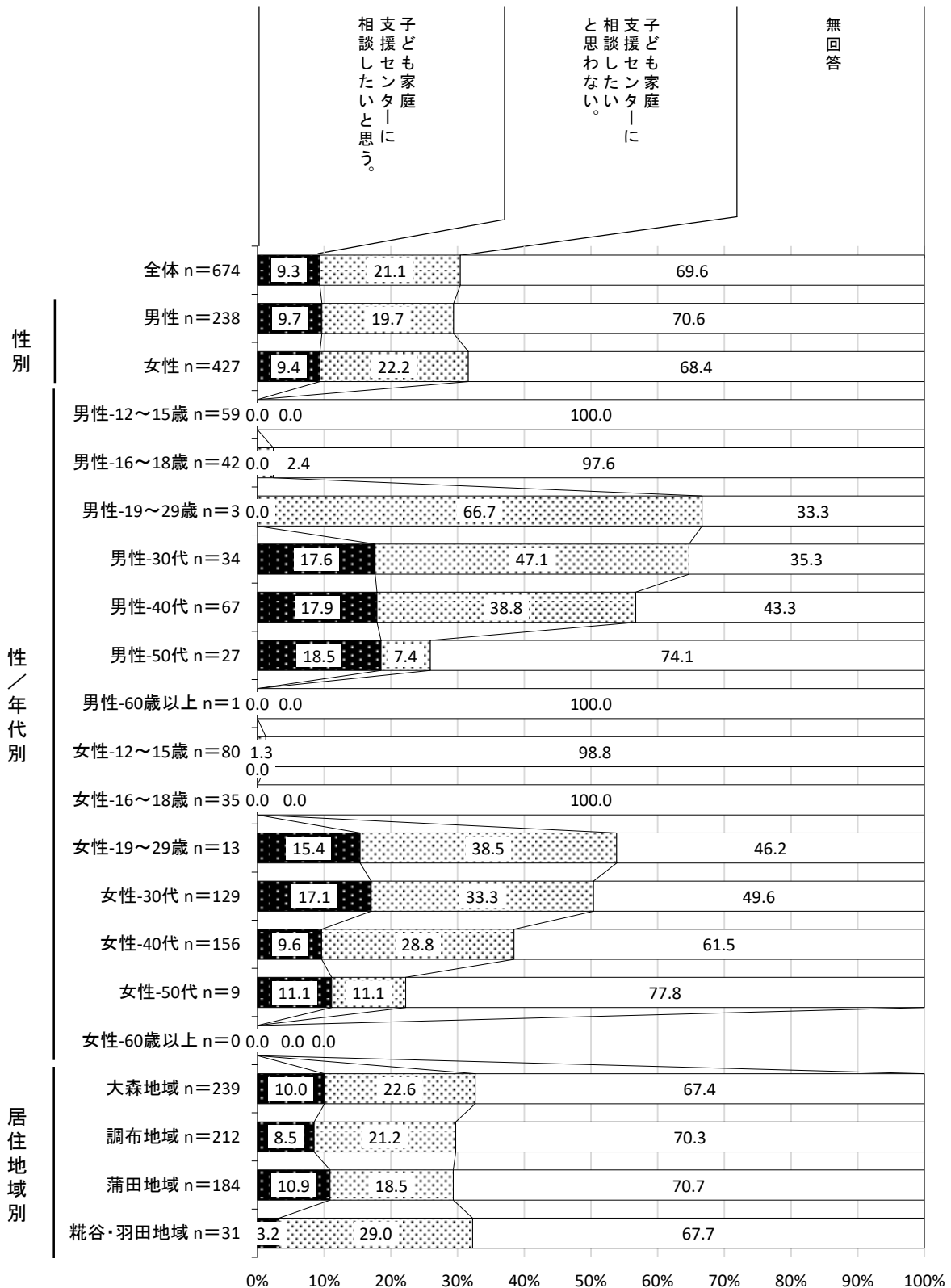


■性別・性／年代別・居住地域別_子ども家庭支援センターへの相談について②

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「子ども家庭支援センターに相談したいと思う。」は男性30代、40代、女性30代で1割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、「子ども家庭支援センターに相談したいと思う。」は大森地域、蒲田地域で約1割と高くなっている。



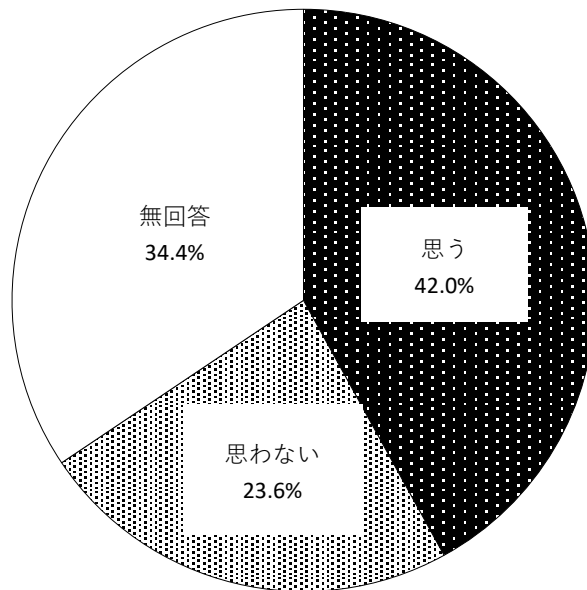
(8) 子育て家庭や親子に対する支援の意向

◇「思う」は4割前半となっている

問7 機会があれば子育てする家庭や親子を支援したいと思いますか。(1つのみ)

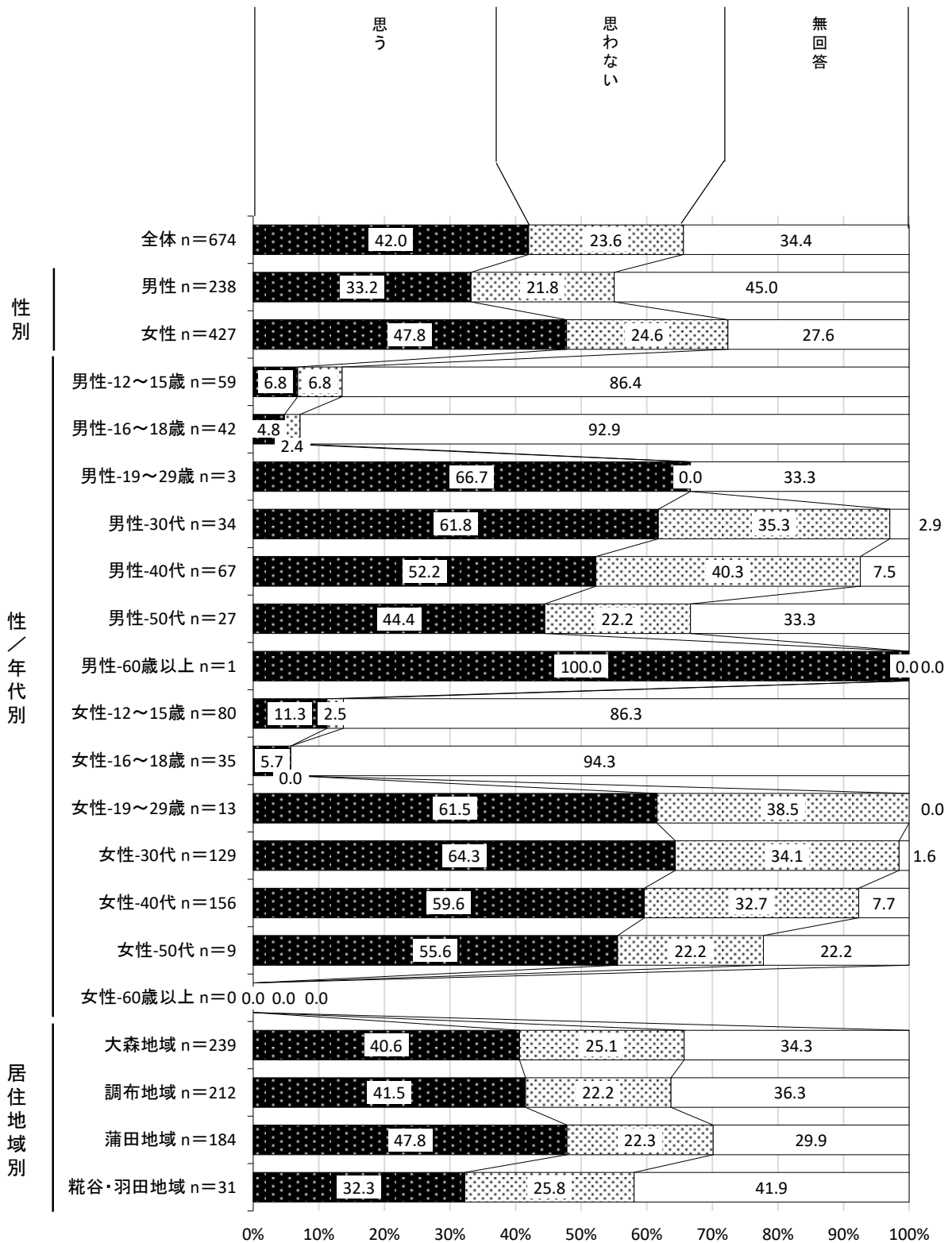
子育て家庭や親子に対する支援の意向については、「思う」が42.0%、「思わない」が23.6%と、「思う」が18.4ポイント上回っている。

全体 n=674



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「思う」は男性が33.2%、女性が47.8%と、女性が14.6ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、「思う」は男性、女性ともに30代で6割前半と高くなっている。
 居住地域別でみると、「思う」は蒲田地域で4割後半と高くなっている。



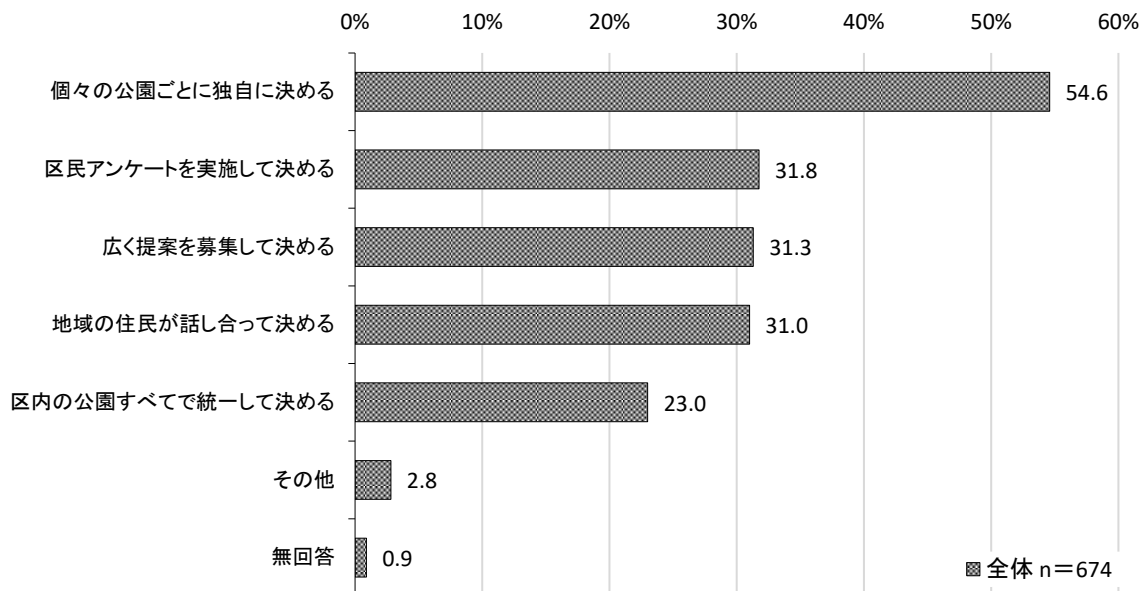
4 公園について

(1) 公園のルールについて賛同できるもの

◇「個々の公園ごとに独自に決める」が5割前半で最も高くなっている

問8 公園での禁止事項、ルールの決め方について賛同できるものを選択して下さい。(3つまで)

公園のルールについて賛同できるものについては、「個々の公園ごとに独自に決める」が54.6%、次いで「区民アンケートを実施して決める」が31.8%、「広く提案を募集して決める」が31.3%となっている。

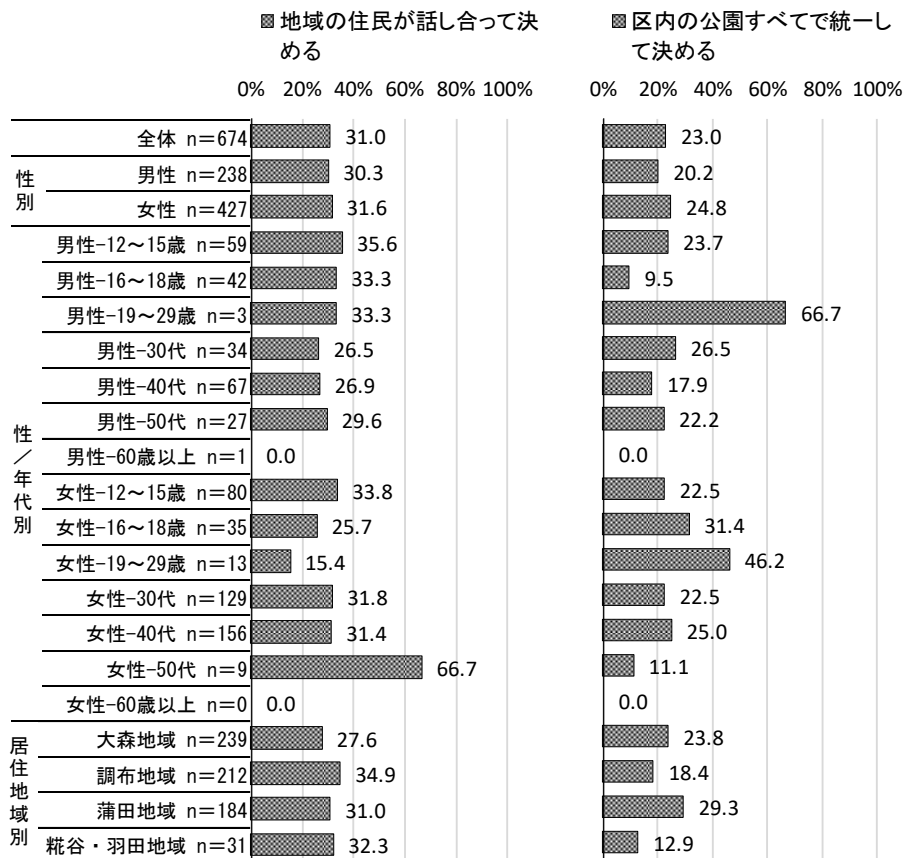
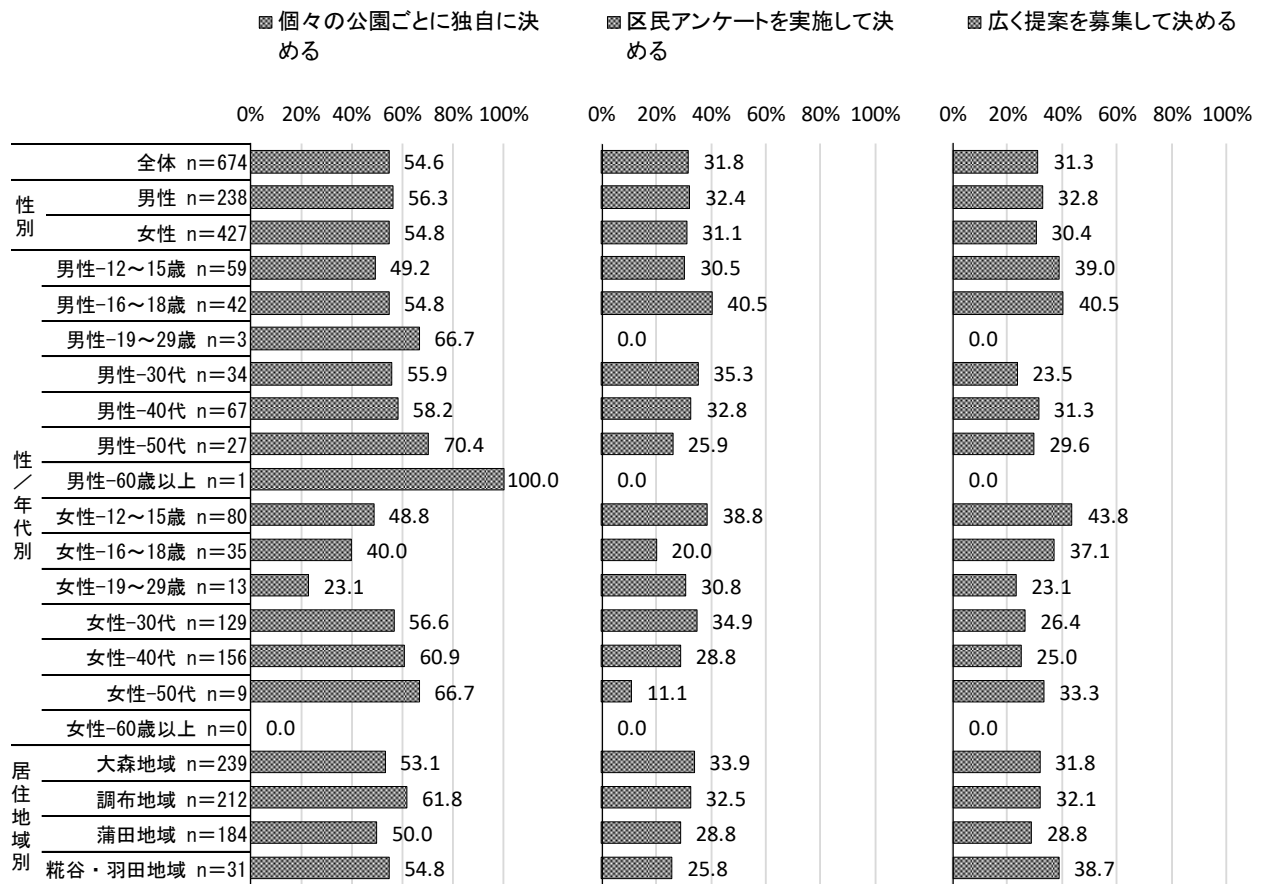


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「個々の公園ごとに独自に決める」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、「個々の公園ごとに独自に決める」は女性40代で6割前半と高くなっている。

居住地域別で見ると、「個々の公園ごとに独自に決める」は調布地域で6割前半と高くなっている。



5 自転車の利用について

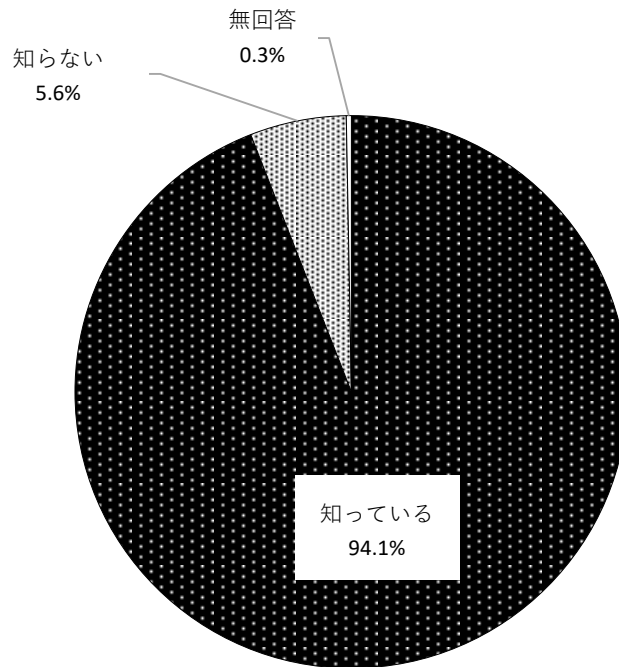
(1) 「ヘルメット着用の努力義務化」の認知度

◇ 「知っている」が9割前半となっている

問9 令和5年4月1日から、自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務化されたことを知っていますか。(1つのみ)

“ヘルメット着用の努力義務化”の認知度については、「知っている」が94.1%、「知らない」が5.6%と、「知っている」が88.5ポイント上回っている。

全体 n=674

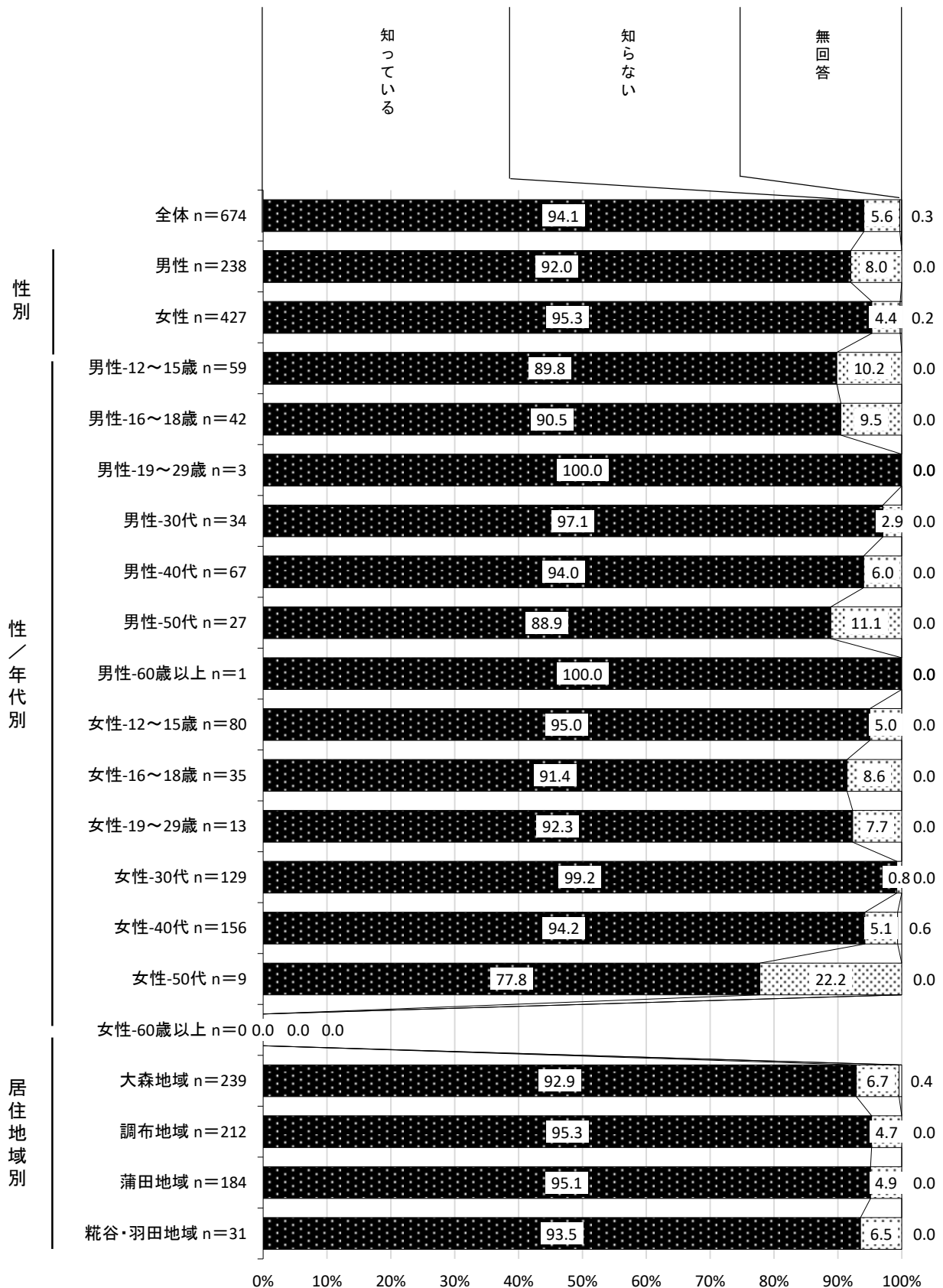


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「知っている」はほぼすべての年代で9割以上となっている。

居住地域別で見ると、「知っている」はすべての地域で9割以上となっている。



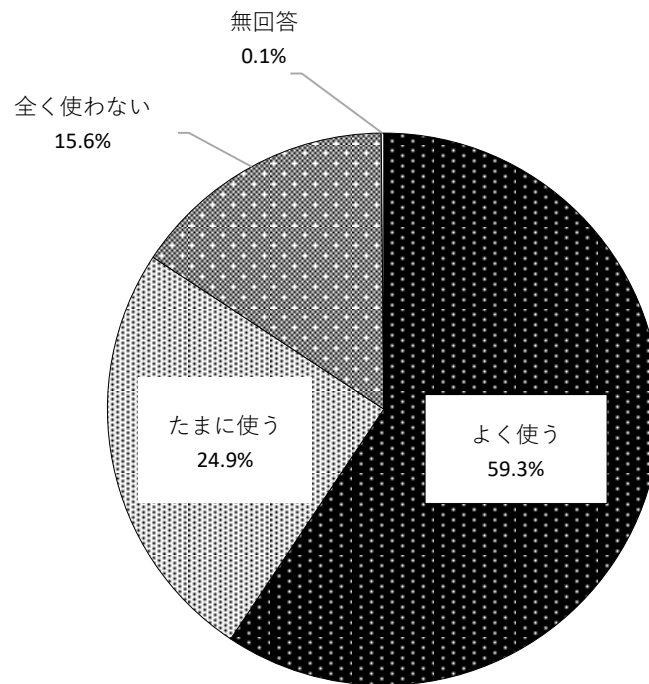
(2) 自転車の利用状況

◇「よく使う」が5割後半となっている

問 10 普段から自転車を使いますか。(1つのみ)

自転車の利用状況については、「よく使う」が59.3%、次いで「たまに使う」が24.9%「全く使わない」が15.6%となっている。

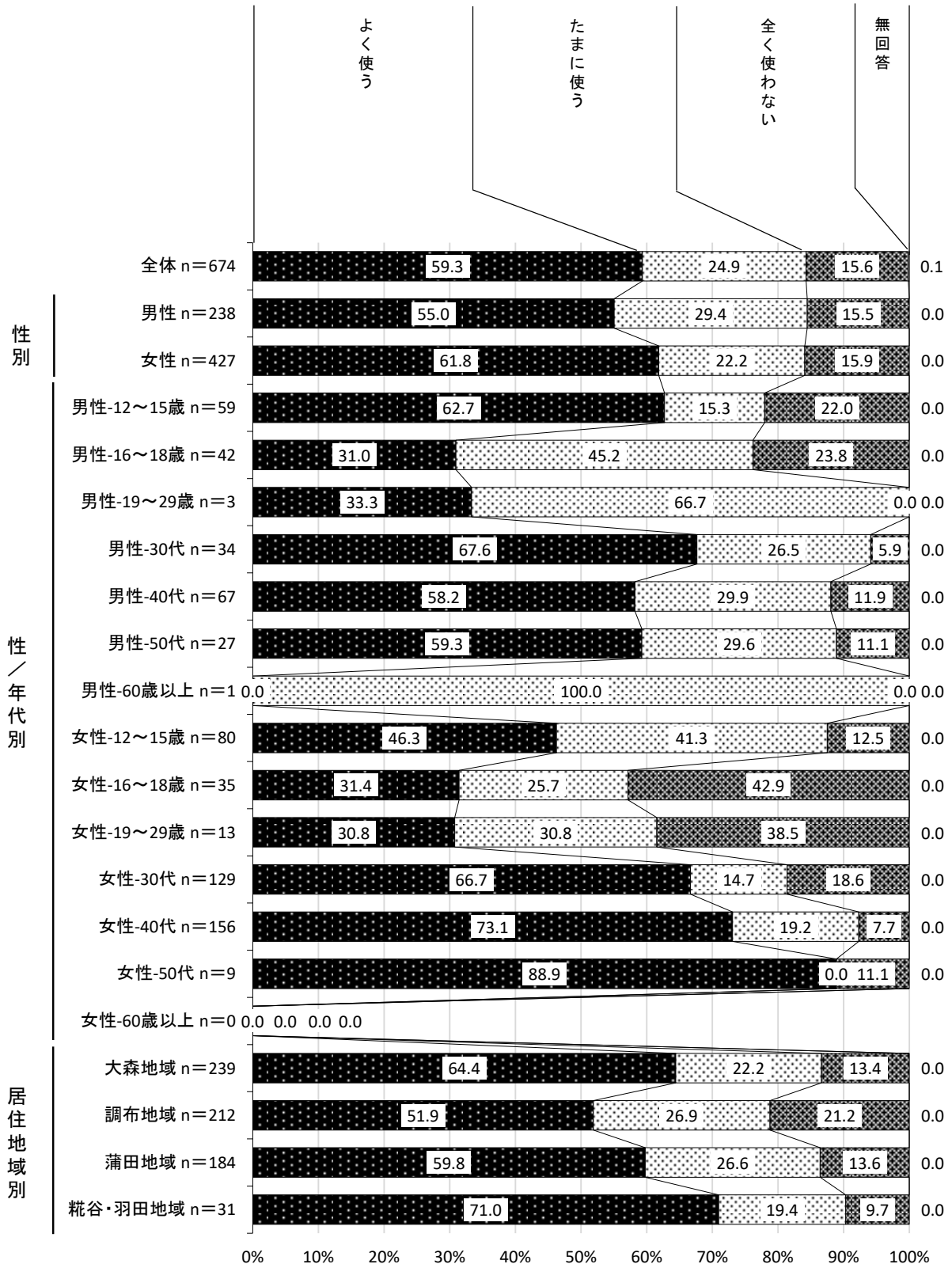
全体 n=674



■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、「よく使う」は男性が55.0%、女性が61.8%と、女性が6.8ポイント上回っている。
 性／年代別で見ると、「よく使う」は男性では30代で6割後半、女性では40代で7割前半と高くなっている。

居住地域別で見ると、「よく使う」は糀谷・羽田地域で7割前半と高くなっている。



(3) ヘルメットの着用頻度

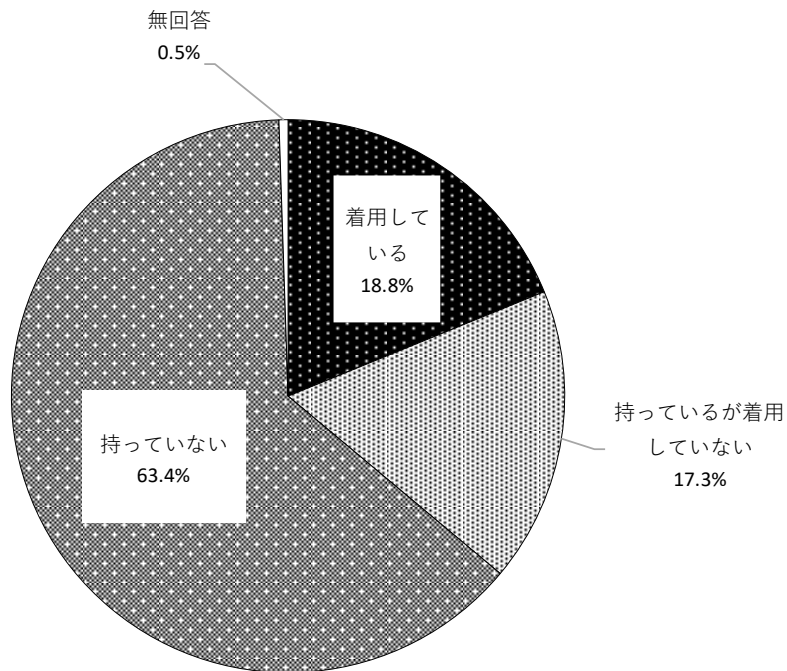
◇「着用している」は1割後半となっている

【問 10で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-1 自転車に乗る時、ヘルメットを着用していますか。(1つのみ)

ヘルメットの着用頻度については、「持っていない」が63.4%で最も高く、次いで「着用している」が18.8%、「持っているが着用していない」が17.3%となっている。

全体 n=568

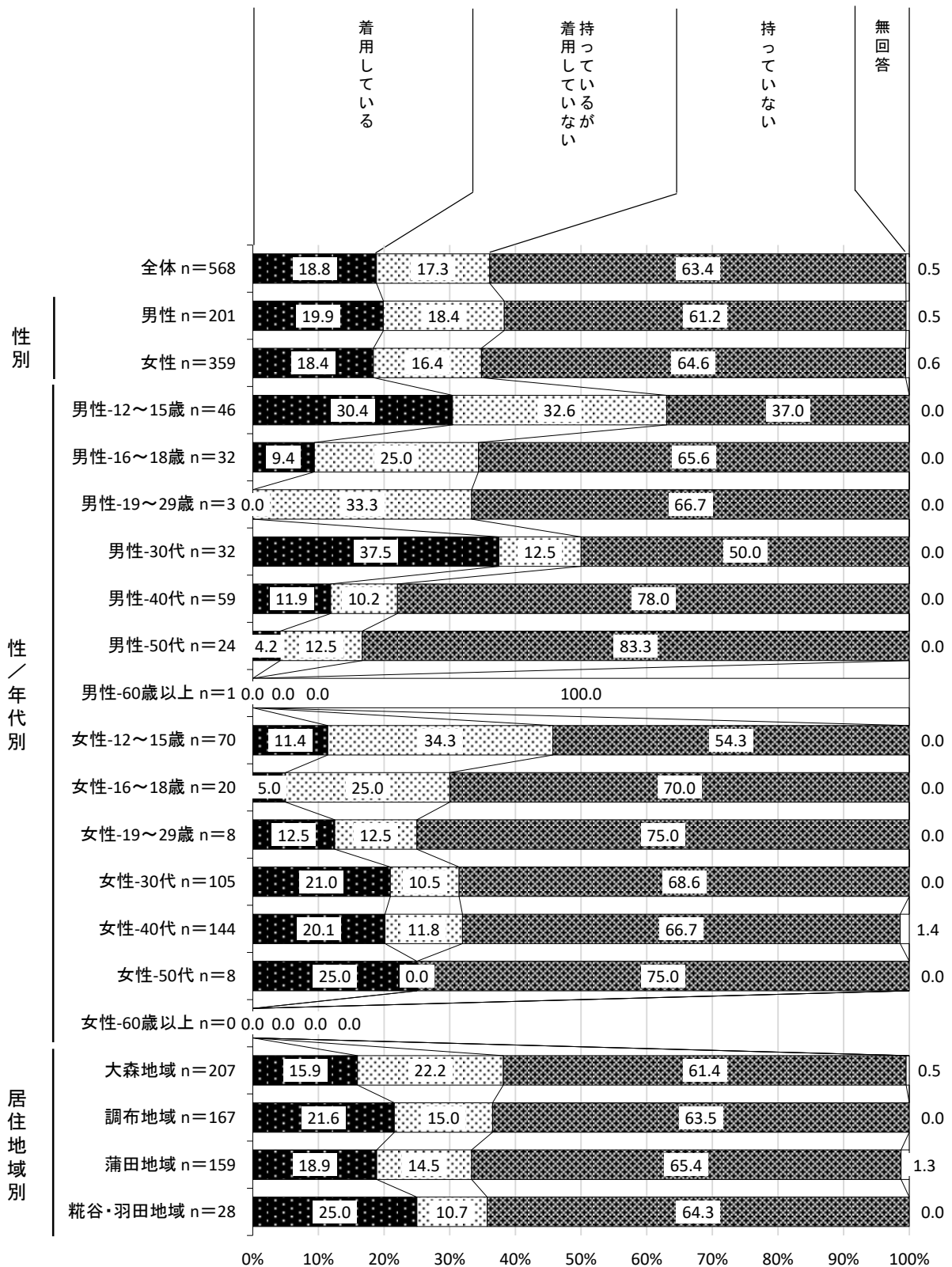


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「着用している」は男性30代で3割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、「着用している」は調布地域で2割前半と高くなっている。



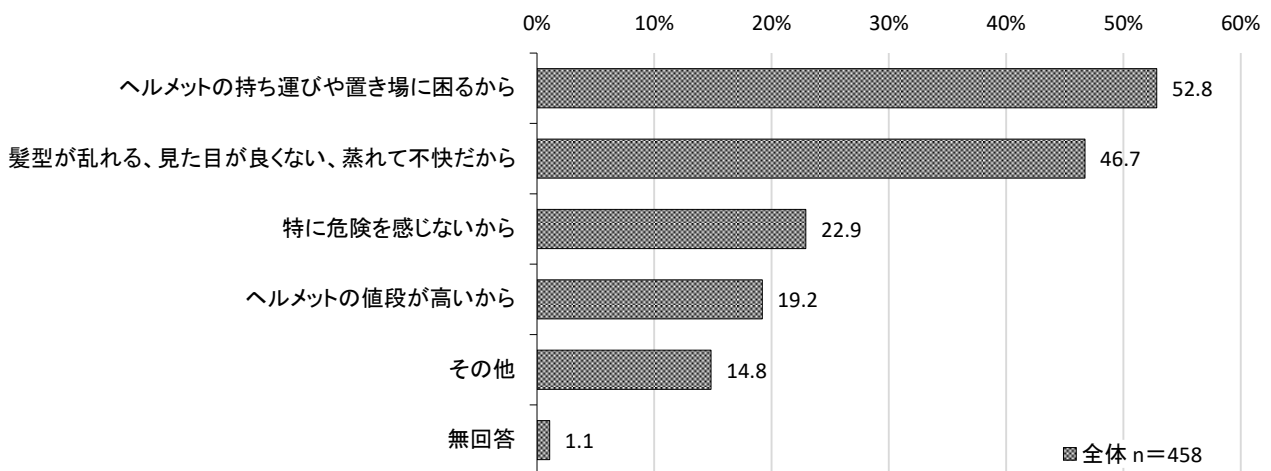
(4) ヘルメットをしない(持っていない)理由

◇「ヘルメットの持ち運びや置き場に困るから」が5割前半で最も高くなっている

【問 10-1で「2 持っているが着用していない」「3 持っていない」と回答した方に伺います。】

問 10-2 ヘルメットを着用していない(持っていない)理由は何ですか。(複数選択可)

ヘルメットをしない(持っていない)理由については、「ヘルメットの持ち運びや置き場に困るから」が52.8%で最も高く、次いで「髪型が乱れる、見た目が良くない、蒸れて不快だから」が46.7%、「特に危険を感じないから」が22.9%となっている。

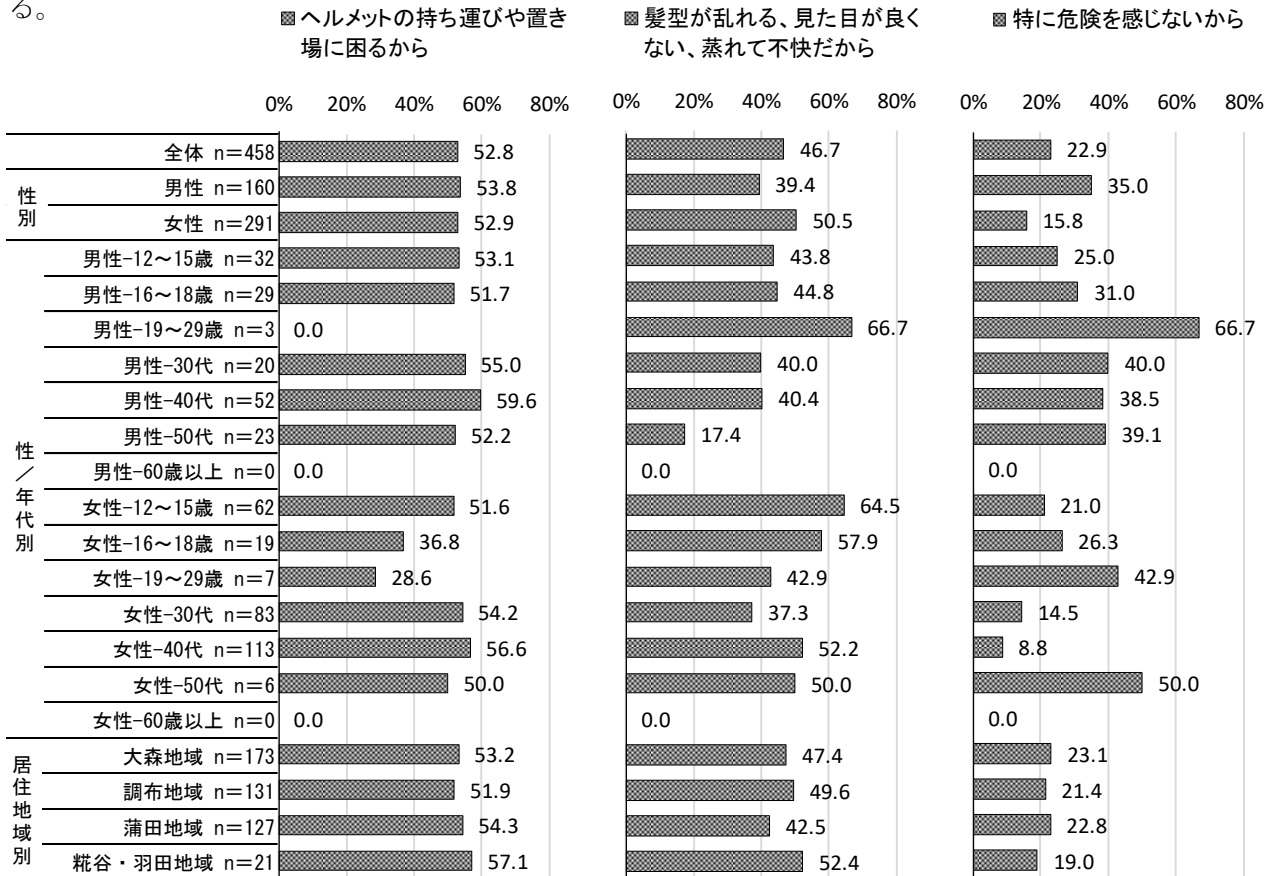


■性別・性／年代別・居住地域別

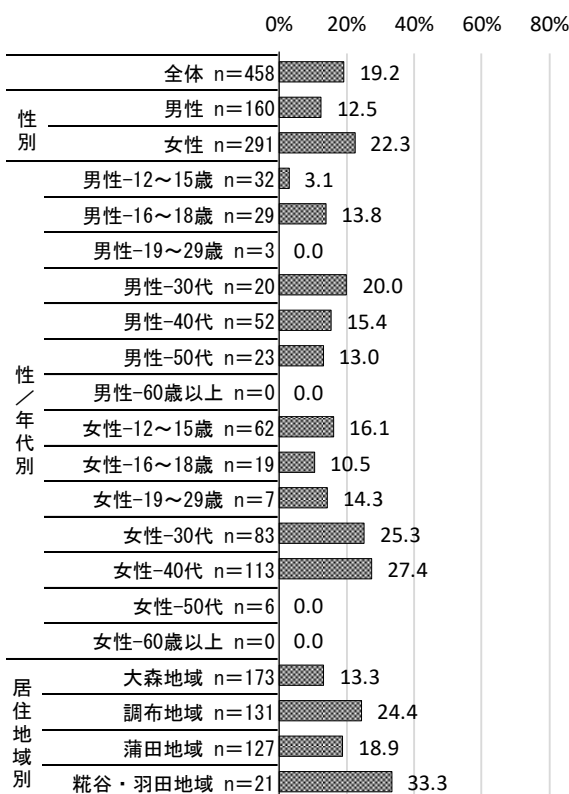
性別でみると、男性、女性ともに「ヘルメットの持ち運びや置き場に困るから」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「髪型が乱れる、見た目が良くない、蒸れて不快だから」は女性12～15歳代で6割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、全ての地域で「ヘルメットの持ち運びや置き場に困るから」が最も高くなっている。



■ヘルメットの値段が高いから



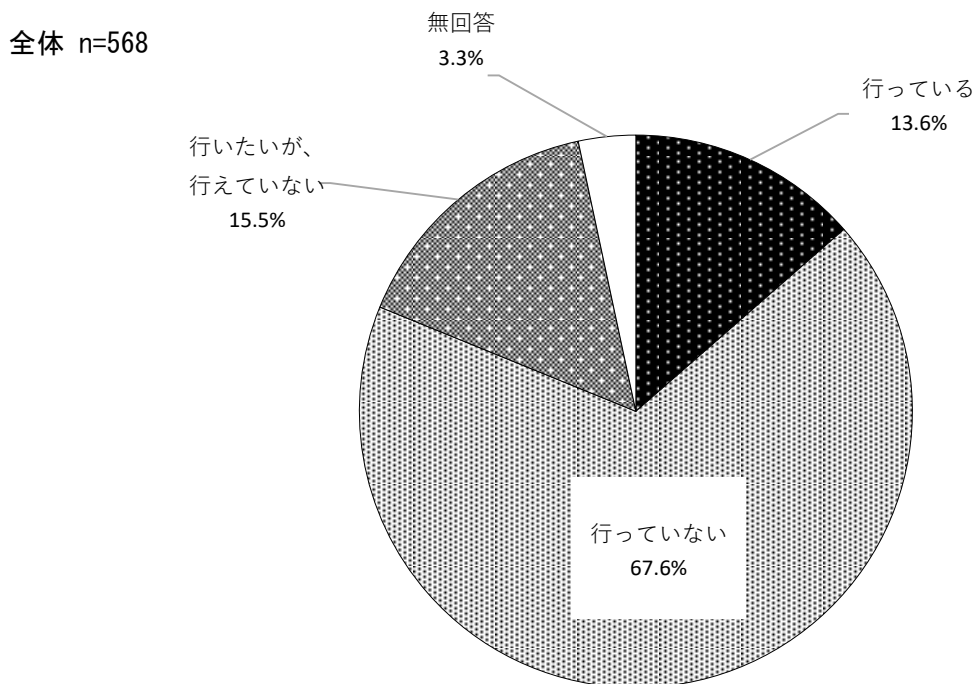
(5) サイクリングやサイクルスポーツの実施状況

◇「行っている」は1割前半となっている

【問 10で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

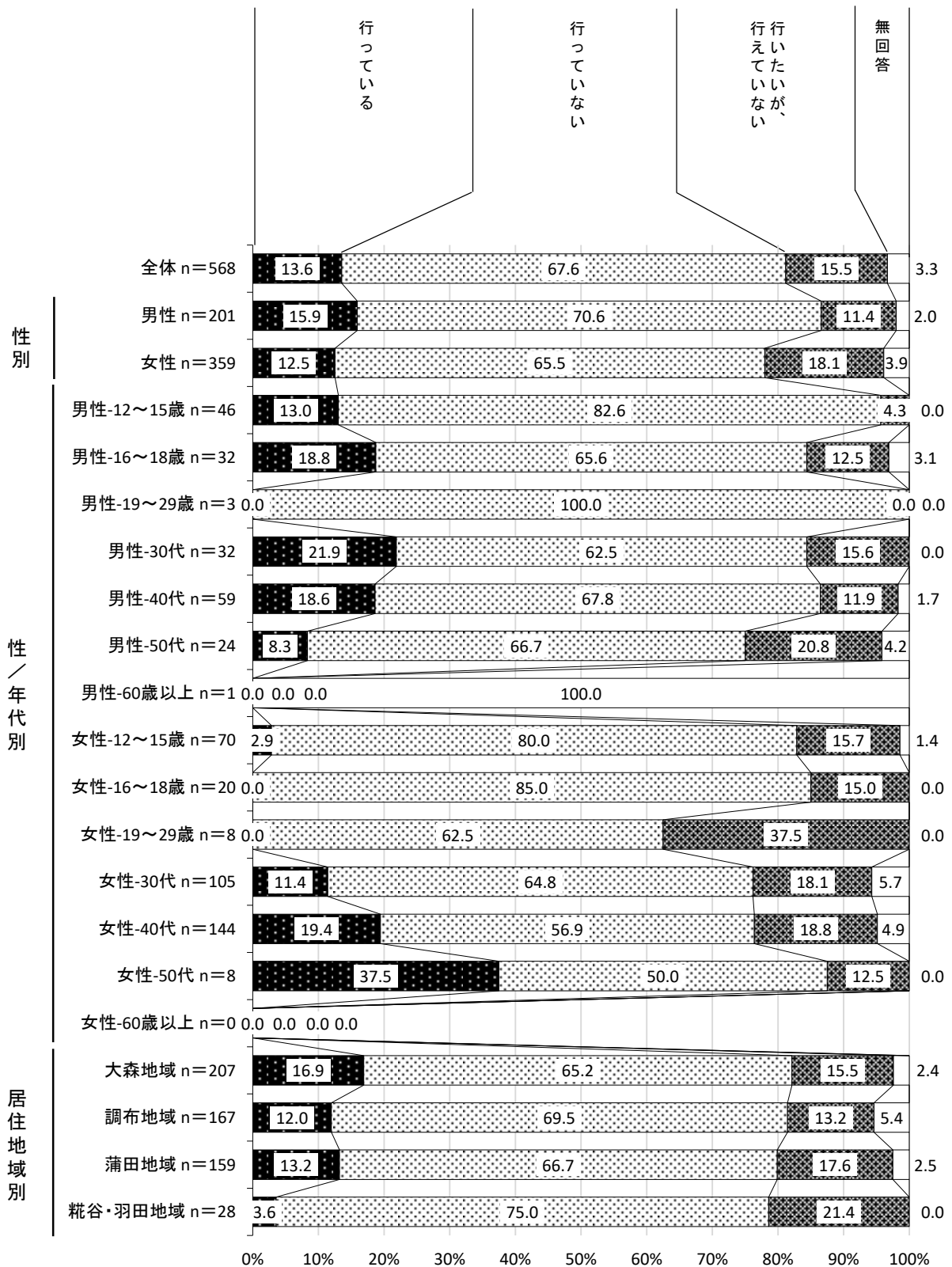
問 10-3 休日などの余暇時間があるときにサイクリングやサイクルスポーツを行っていますか。(1つのみ)

サイクリングやサイクルスポーツの実施状況については、「行っていない」が67.6%で最も高く、次いで「行いたい、行えていない」が15.5%、「行っている」が13.6%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、「行っている」は男性 15.9%、女性 12.5%と、男性が 3.4 ポイント上回っている。
 性／年代別で見ると、「行っている」は男性 30 代で 2 割前半、女性 40 代で 1 割後半と高くなっている。
 居住地域別で見ると、「行っている」は大森地域で 1 割後半と高くなっている。



(6) 守れていないと思う交通ルール

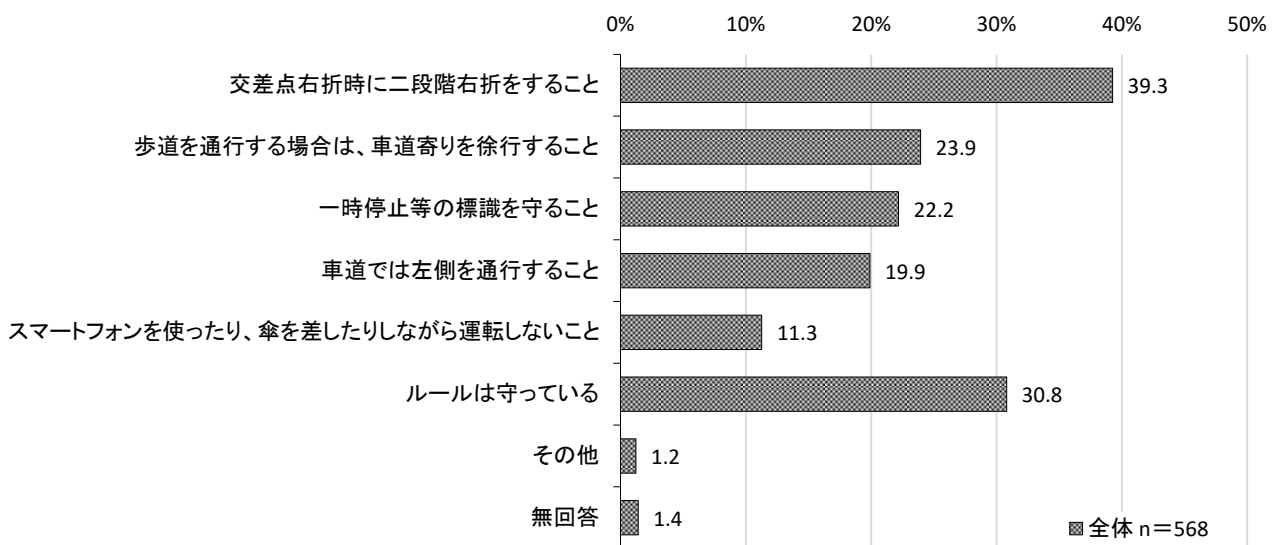
◇「交差点右折時に二段階右折をすること」が3割後半で最も高くなっている

【問 10 で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-4 自転車に乗るときにご自身が守れていないと思う交通ルールは何ですか。(複数選択可)

守れていないと思う交通ルールについては、「交差点右折時に二段階右折をすること」が39.3%で最も高く、次いで「歩道を通行する場合は、車道寄りを徐行すること」が23.9%、「一時停止等の標識を守ること」が22.2%となっている。

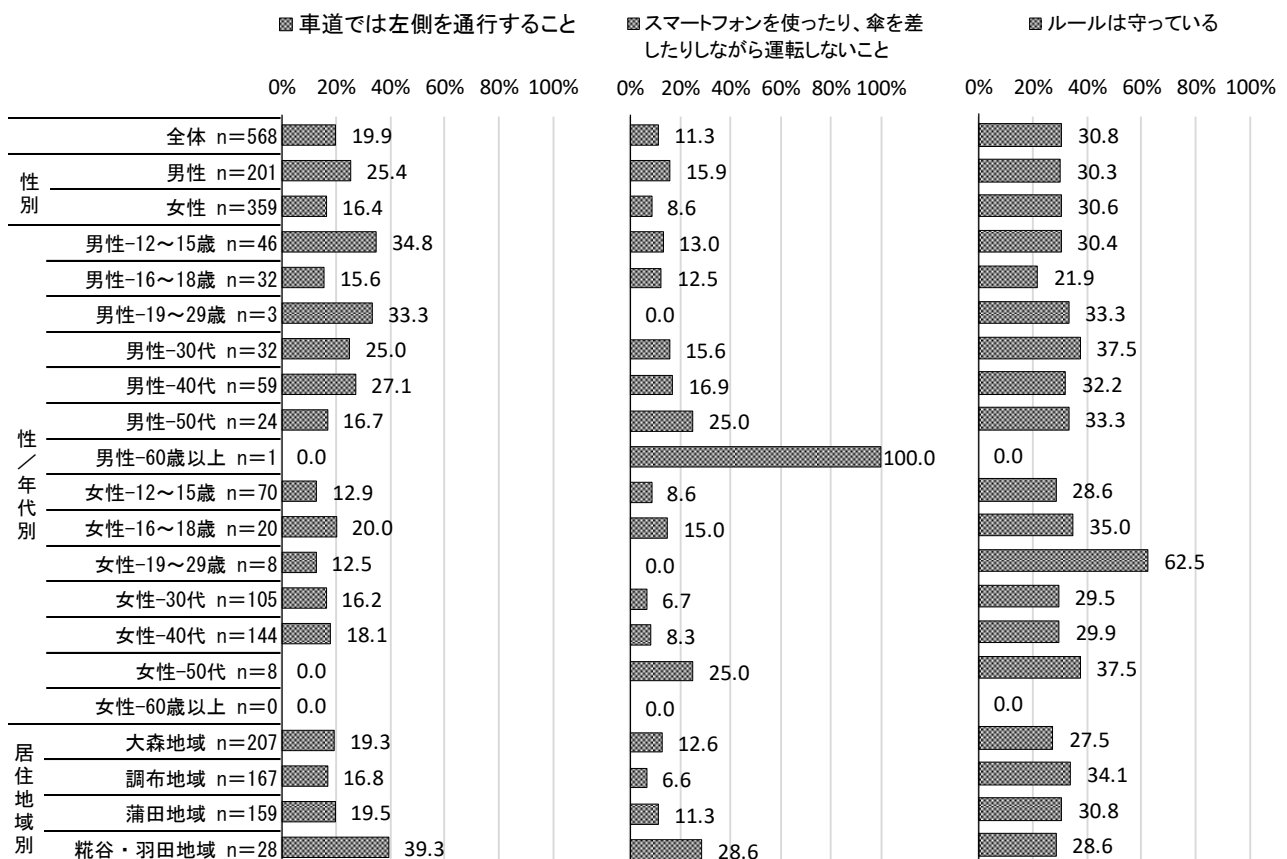
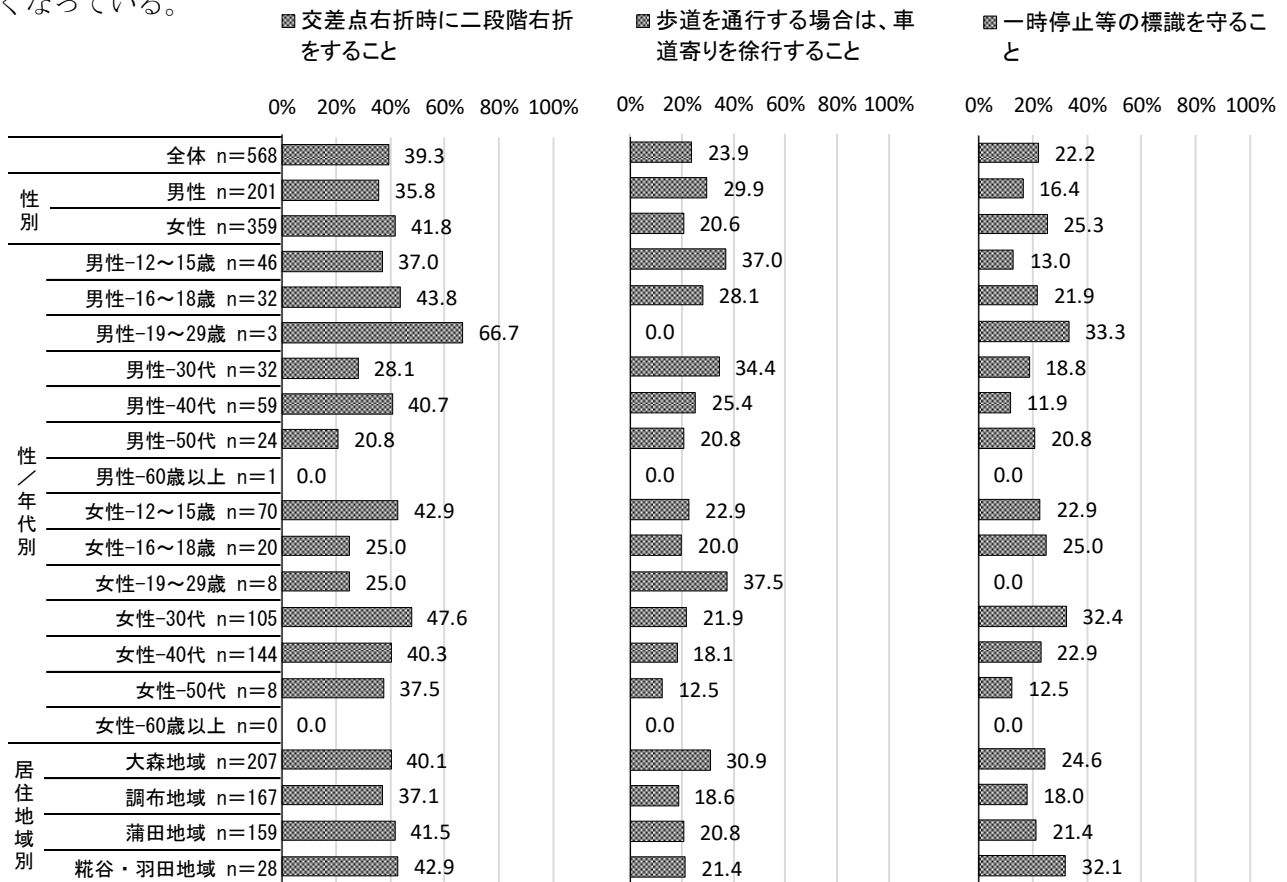
なお、「ルールは守っている」は30.8%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「交差点右折時に二段階右折をすること」が最も高く、男性 35.8%、女性 41.8%と、女性が6ポイント上回っている。

居住地域別で見ると、「歩道を通行する場合は、車道寄りを徐行すること」は大森地域で3割前半と高くなっている。



(7) 自転車の施錠状況

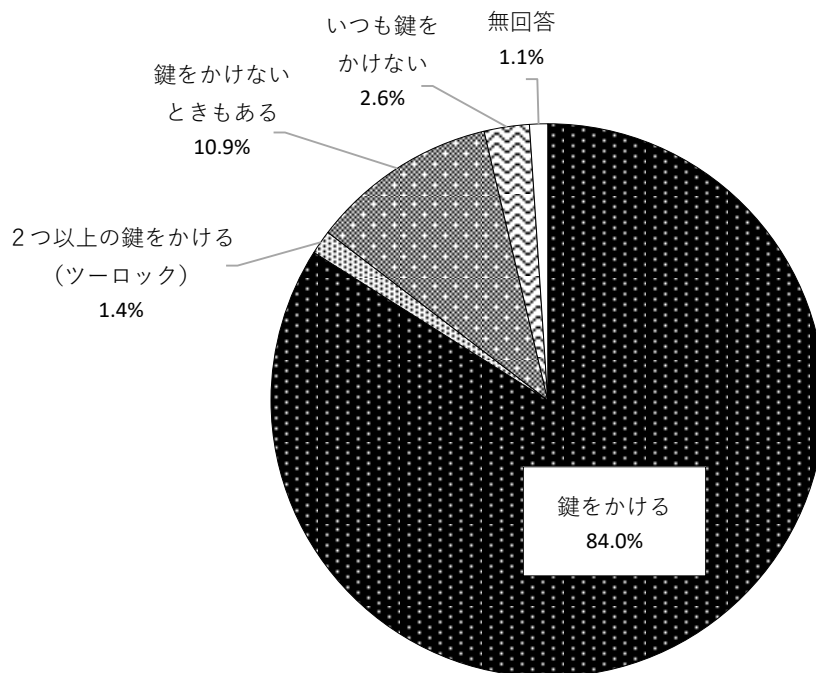
◇「鍵をかける」が8割前半となっている

【問 10で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-5 普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(1つのみ)

自転車の施錠状況については、「鍵をかける」が84.0%で最も高く、次いで「鍵をかけないときもある」が10.9%、「いつも鍵をかけない」が2.6%となっている。

全体 n=568

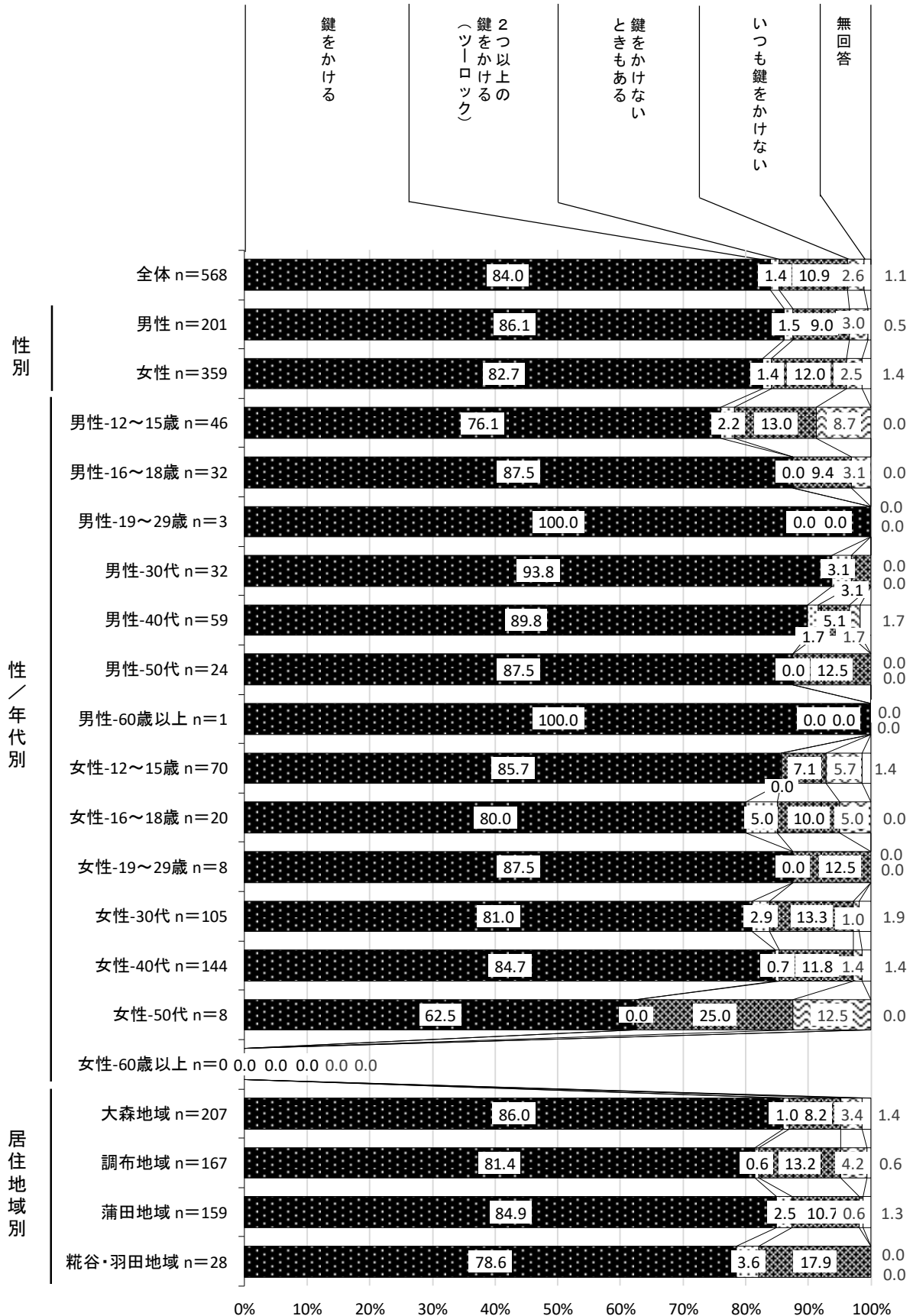


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「鍵をかける」は男性では30代で9割前半、女性では12歳～15歳で8割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、「鍵をかける」はすべての地域で約8割から8割以上となっている。



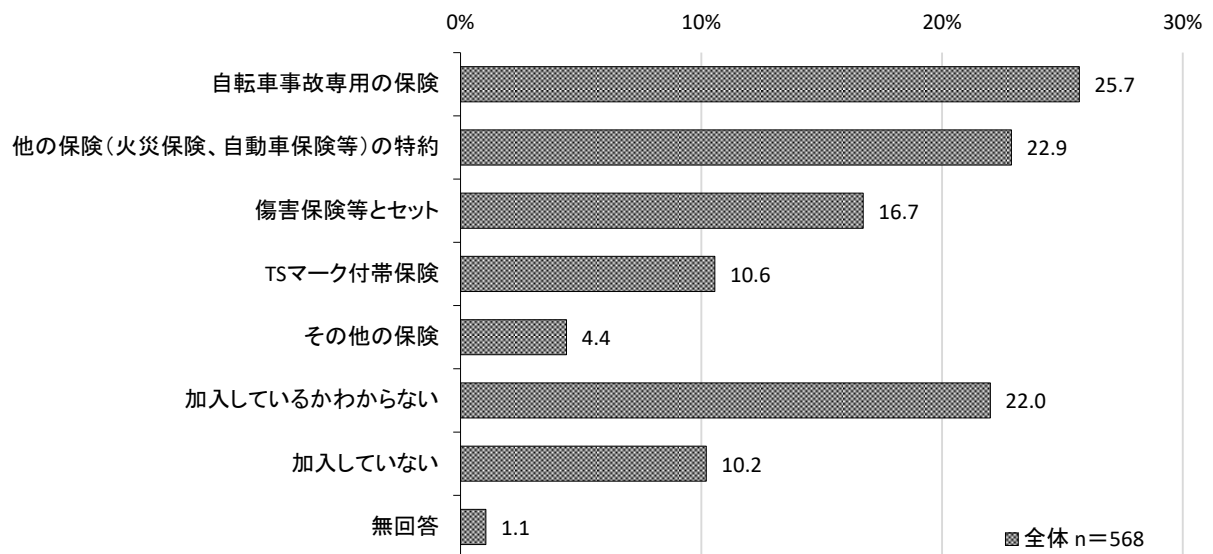
(8) 損害賠償保険への加入状況

◇「自転車事故専用の保険」が2割半ばで最も高くなっている

【問 10 で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-6 自転車利用中の対人賠償事故に備える保険に加入していますか。(1～5は複数選択可)

損害賠償保険への加入状況については、「自転車事故専用の保険」が25.7%で最も高く、次いで「他の保険(火災保険、自動車保険等)の特約」が22.9%、「傷害保険等とセット」が16.7%となっている。
 なお、「加入していない」は10.2%となっている。

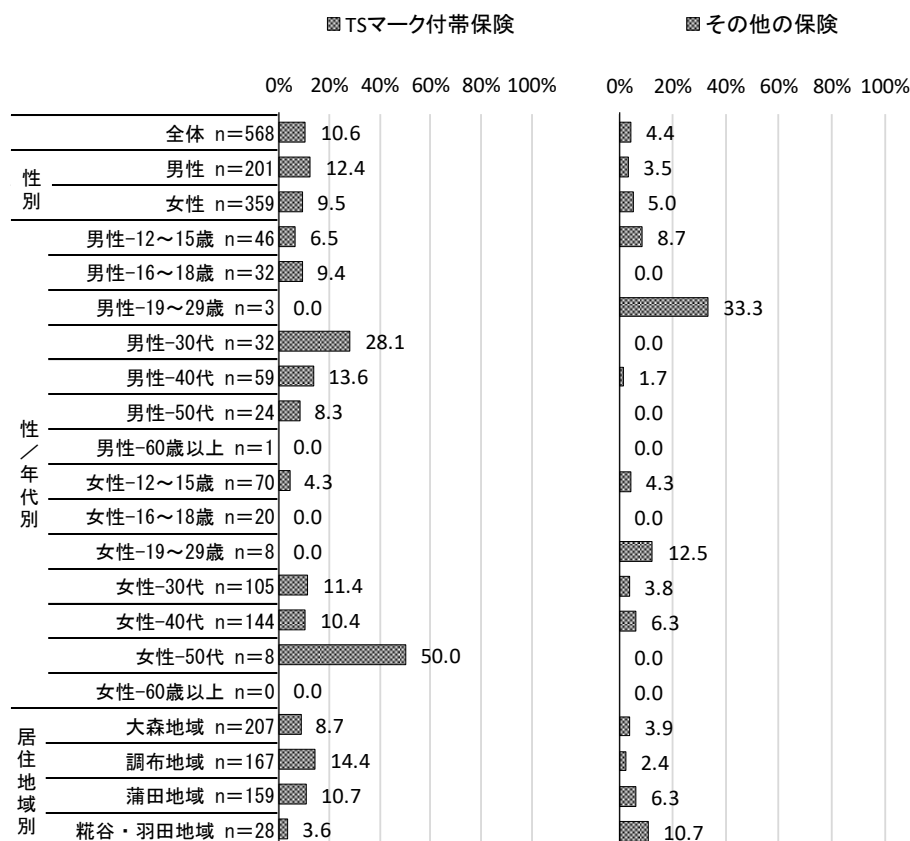
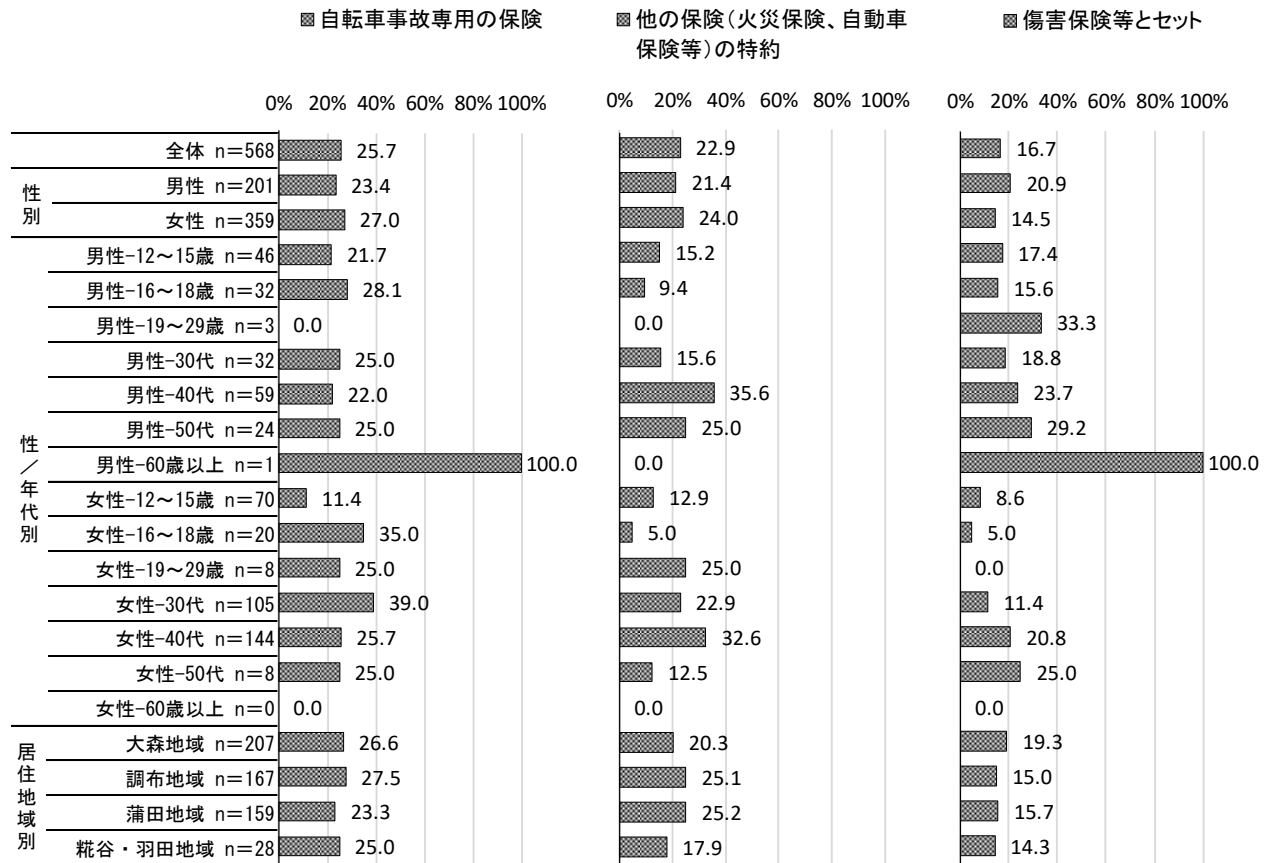


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「自転車事故専用の保険」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、「自転車事故専用の保険」は女性30代で、「他の保険（火災保険、自動車保険等）の特約」は男性、女性ともに40代で、「TSマーク付帯保険」は男性30代で高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな差はみられない。



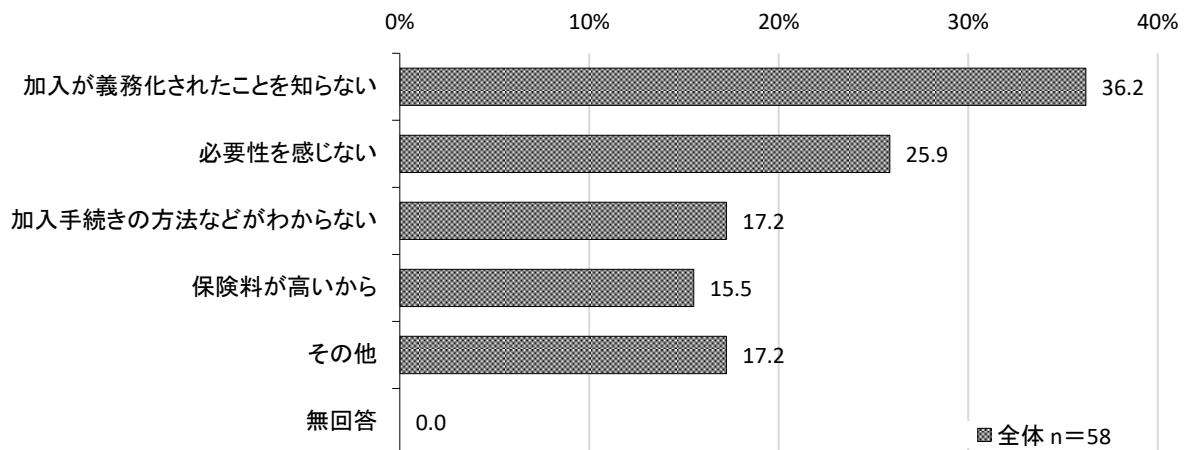
(9) 損害賠償保険に加入していない理由

◇「加入が義務化されたことを知らない」が3割後半で最も高くなっている

【問 10-6 で「7 加入していない」と回答した方に伺います。】

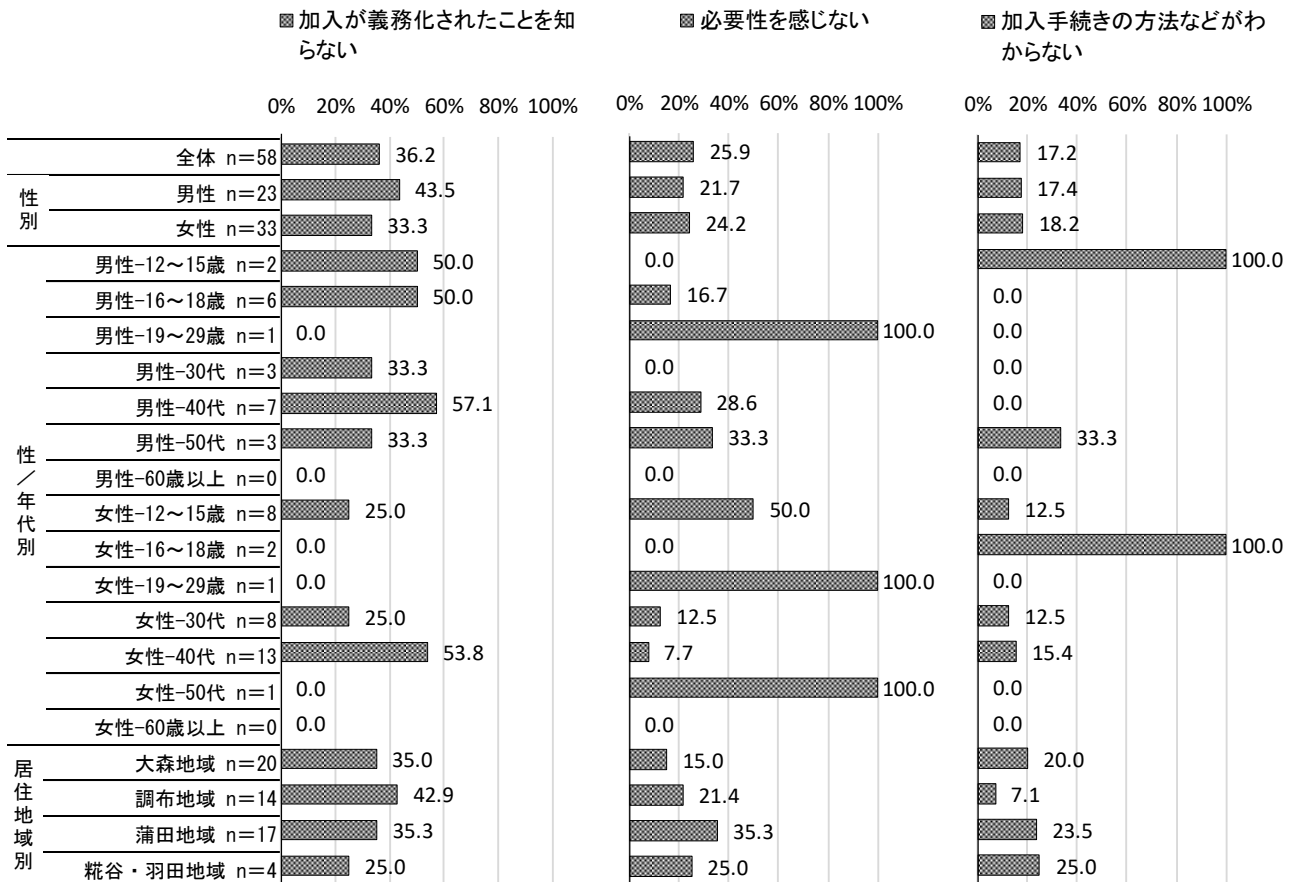
問 10-7 保険に加入していない理由は何ですか。(複数選択可)

損害賠償保険に加入していない理由については、「加入が義務化されたことを知らない」が36.2%で最も高く、次いで「必要性を感じない」が25.9%、「加入手続きの方法などがわからない」が17.2%となっている。

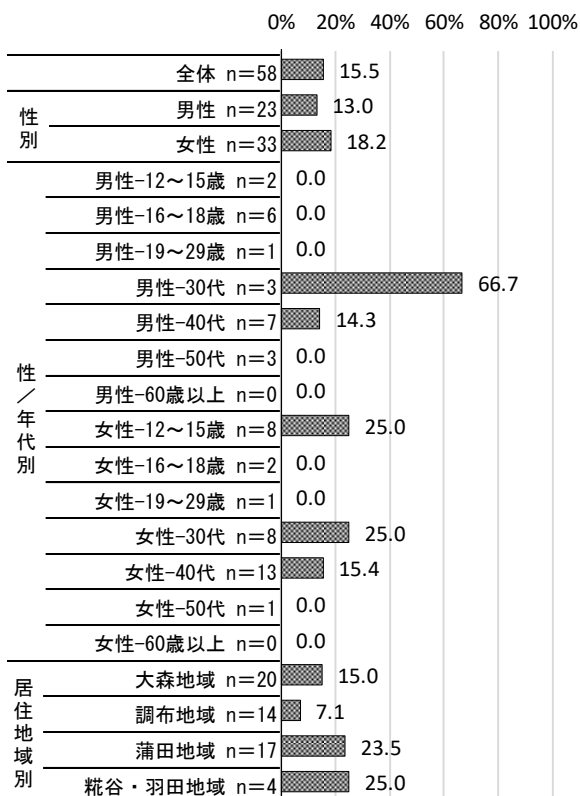


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「加入が義務化されたことを知らない」が最も高く、男性が43.5%、女性が33.3%と、男性が10.2ポイント上回っている。



■保険料が高いから



(10)「自転車ナビマーク・ナビライン」の認知度

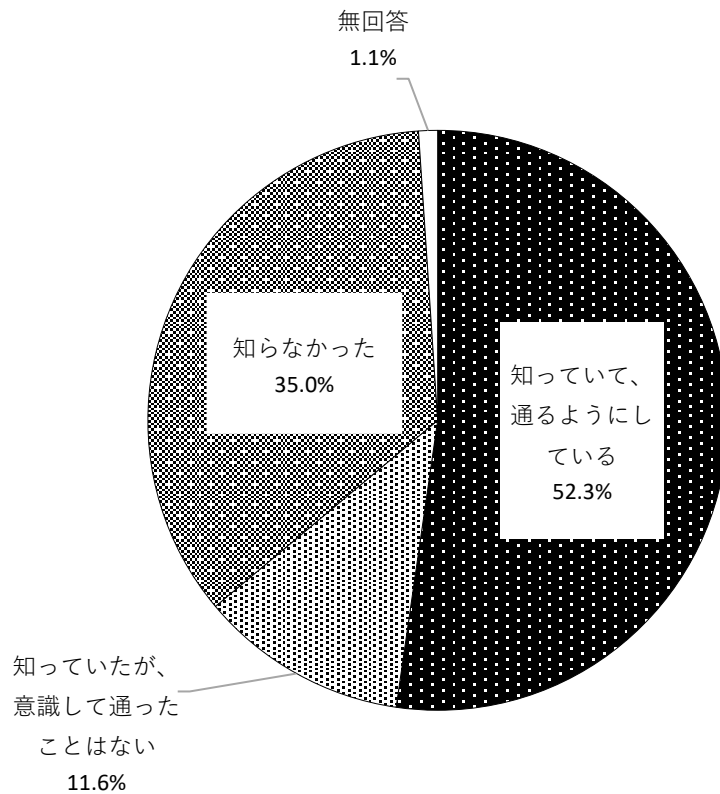
◇「知っていて、通るようにしている」が5割前半で最も高くなっている

【問 10で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-8 自転車の通行場所や進行方向を示す「自転車ナビマーク・ナビライン（矢羽根型路面表示）」を知っていますか。（1つのみ）

“自転車ナビマーク・ナビライン”の認知度については、「知っていて、通るようにしている」が52.3%で最も高く、次いで「知らなかった」が35.0%、「知っていたが意識して通ったことはない」が11.6%となっている。

全体 n=568

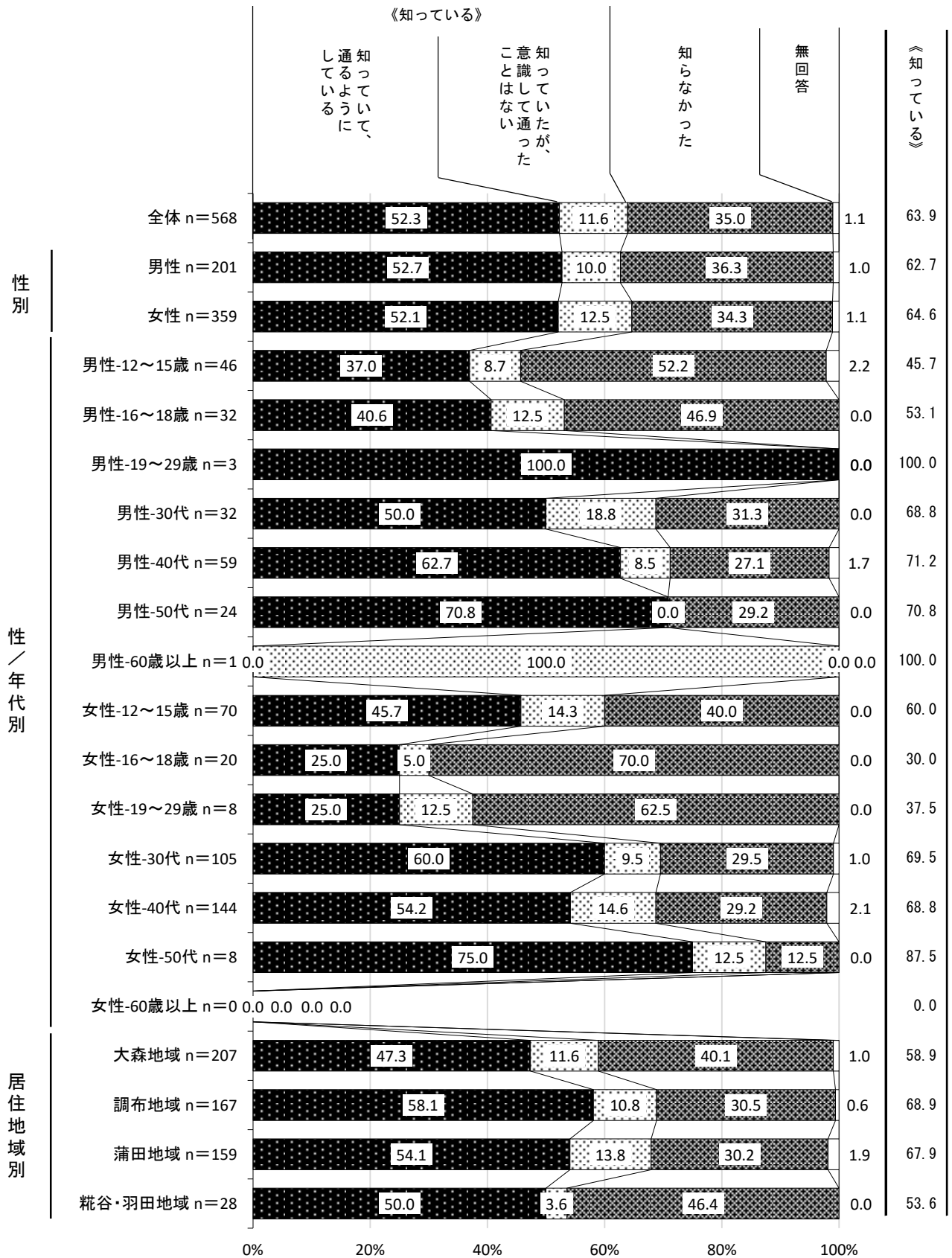


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「知っている通りになっている」は男性では40代で6割前半、女性では30代で6割と高くなっている。

居住地域別で見ると、「知っている通りになっている」は調布地域で5割後半と高くなっている。



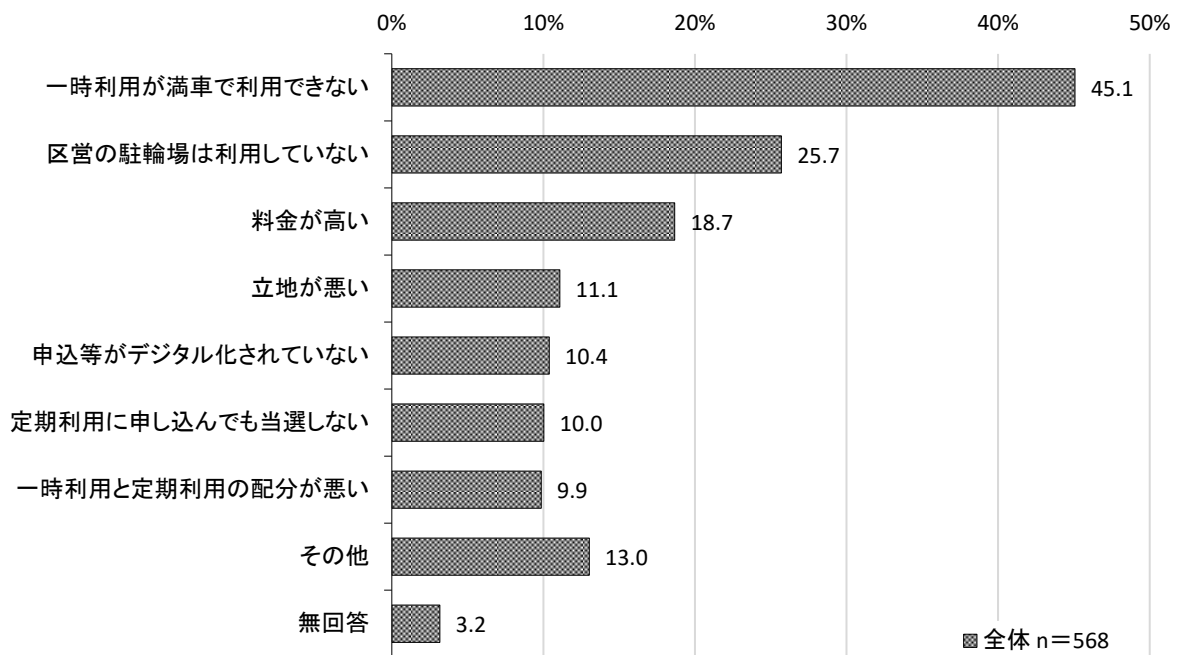
(11) 区営駐輪場で不便に感じていること

◇「一時利用が満車で利用できない」が4割半ばで最も高くなっている。

【問 10 で「1 よく使う」「2 たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 10-9 区営の自転車駐車を利用する際に不便に感じていることは何ですか。(複数選択可)

区営駐輪場で不便に感じていることについては、「一時利用が満車で利用できない」が45.1%で最も高く、次いで「区営の駐輪場は利用していない」が25.7%、「料金が高い」が18.7%となっている。

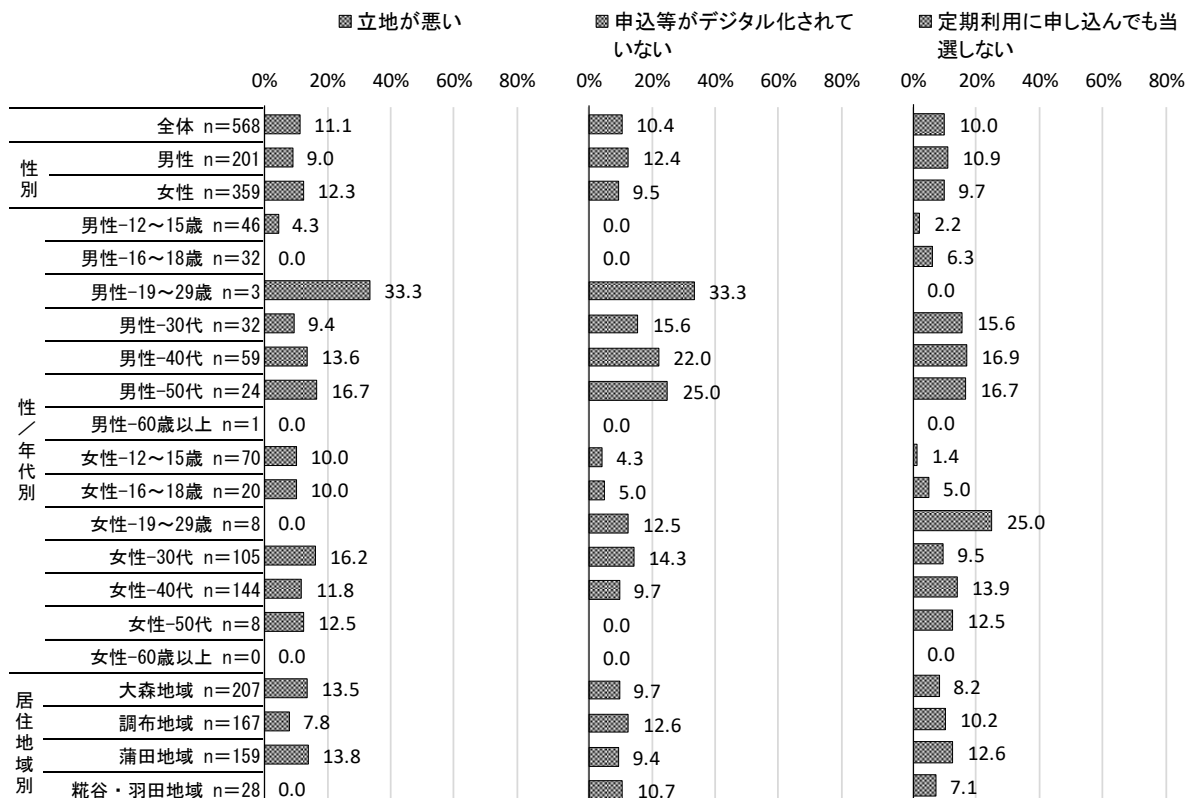
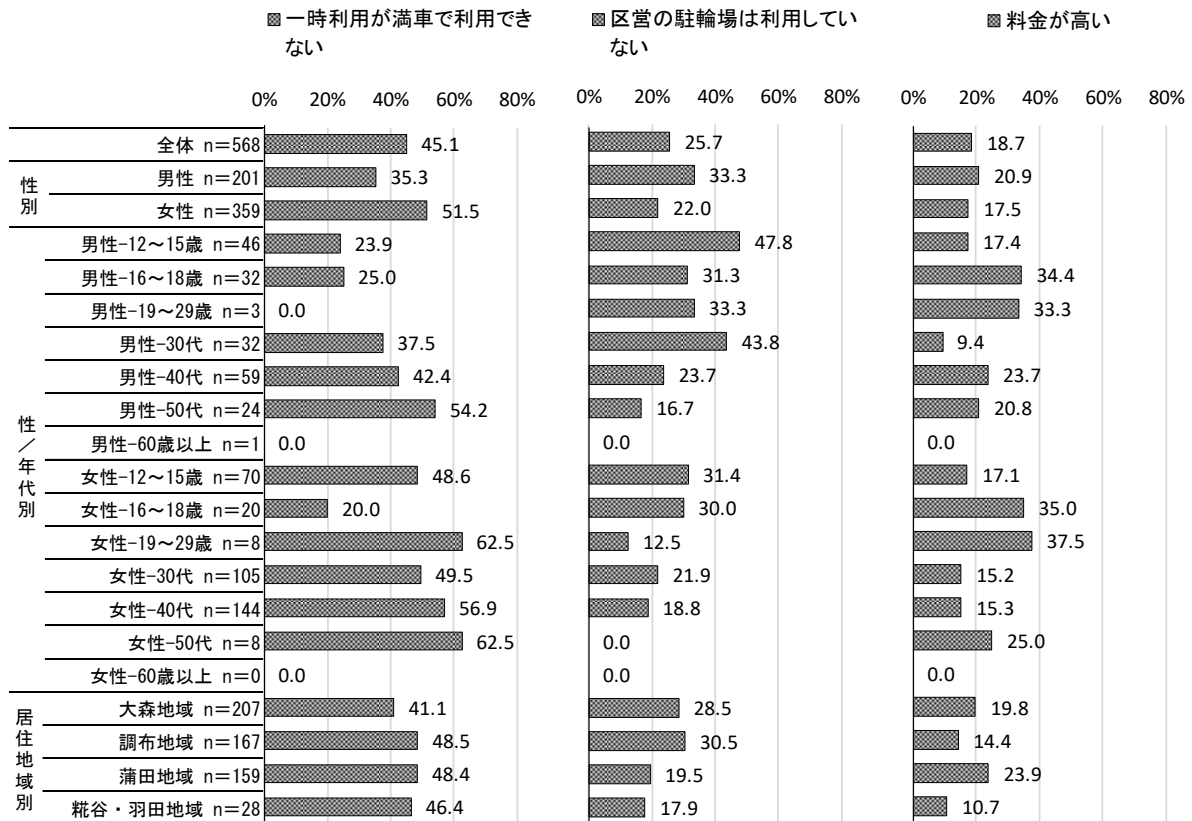


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「一時利用が満車で利用できない」が最も高く、男性が 35.3%、女性が 51.5%と、女性が 16.2 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「一時利用が満車で利用できない」は女性 40 代で、「区営の駐輪場は利用していない」は男性 12～15 歳、30 代で、「料金が高い」は男性 16～18 歳で高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「一時利用が満車で利用できない」が最も高く、「区営の駐輪場は利用していない」は調布地域で約 3 割と高くなっている。



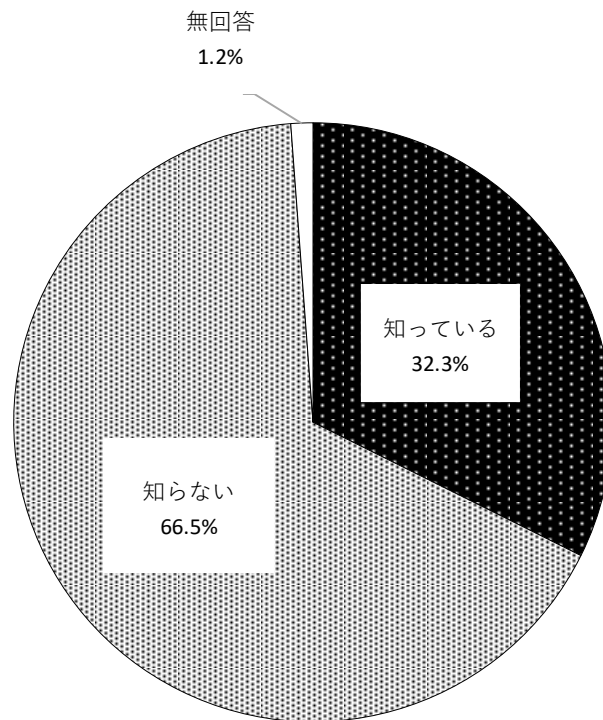
(12) 「コミュニティサイクル」の認知度

◇「知っている」は3割前半となっている

**問 11 大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(1つのみ)**

“コミュニティサイクル”の認知度については、「知っている」が32.3%、「知らない」が66.5%と、「知らない」が34.2ポイント上回っている。

全体 n=674

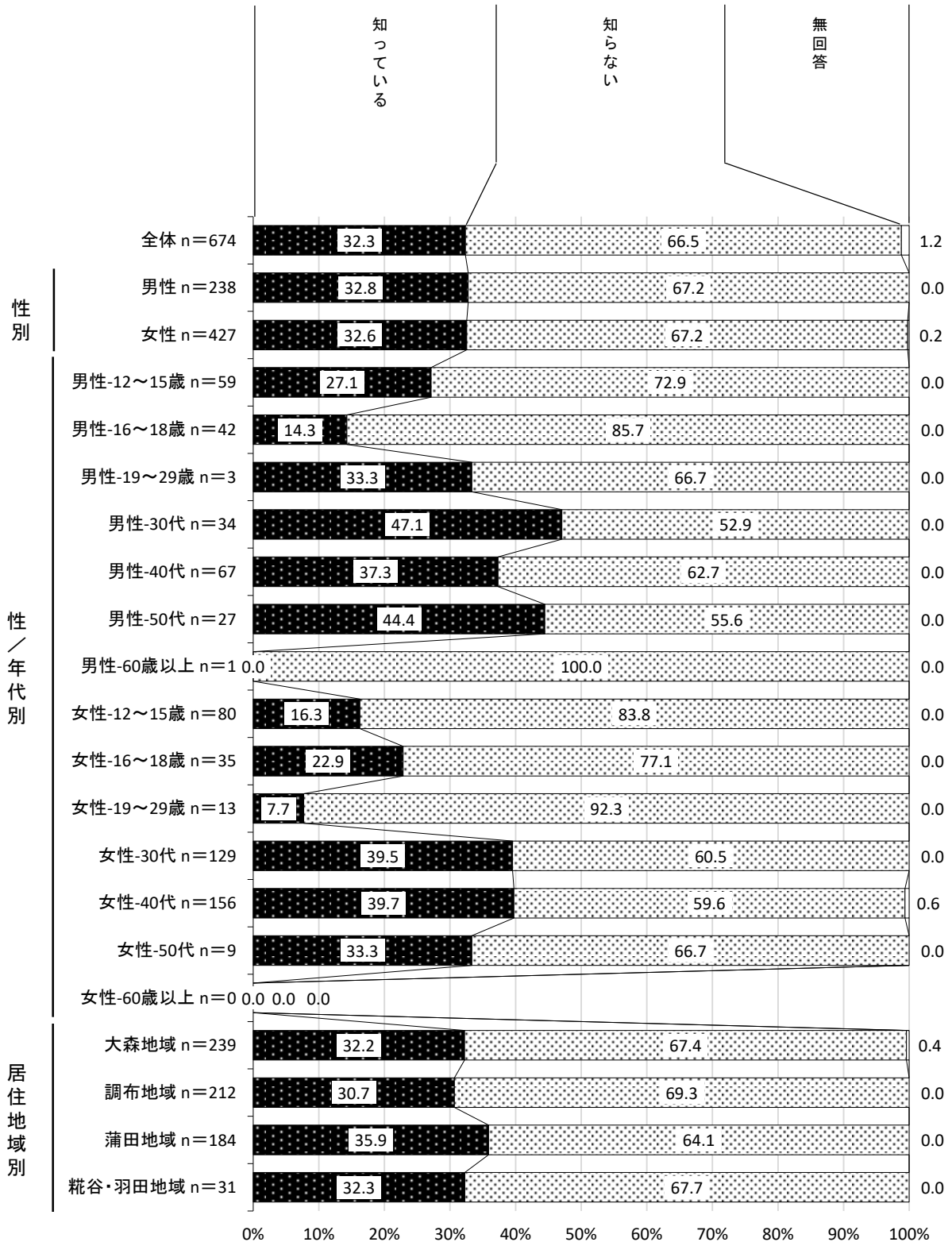


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、大きな差はみられない。

性／年代別で見ると、「知っている」は男性では30代で4割後半、女性では30代、40代で約4割と高くなっている。

居住地域別で見ると、大きな差はみられない。

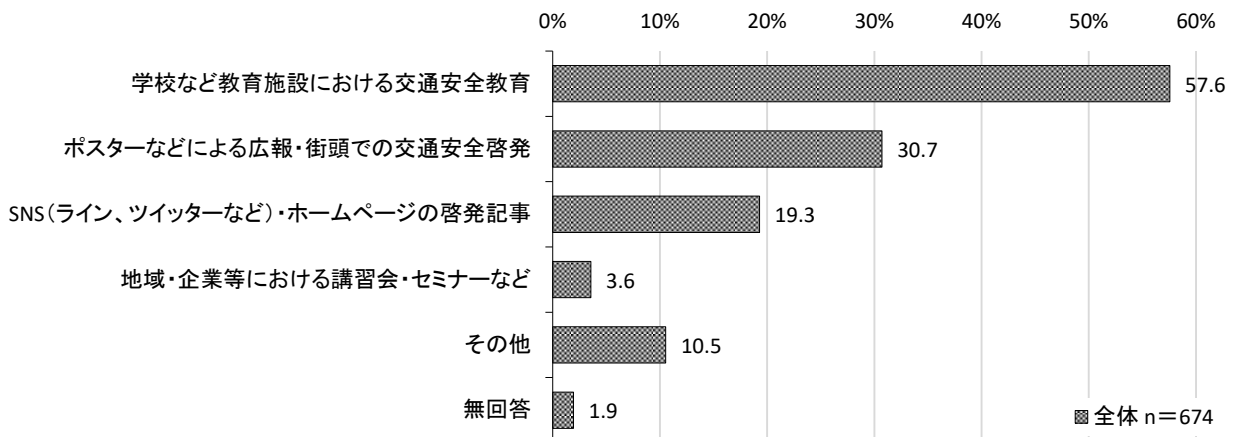


(13) 自転車の運転マナーを知る機会

◇「学校など教育施設における交通安全教育」が5割後半で最も高くなっている

問 12 自転車の運転マナーについてどこで知りましたか。(複数選択可)

自転車の運転マナーを知る機会については、「学校など教育施設における交通安全教育」が57.6%で最も高く、次いで「ポスターなどによる広報・街頭での交通安全啓発」が30.7%、「SNS（ライン、ツイッターなど）・ホームページの啓発記事」が19.3%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「学校など教育施設における交通安全教育」が最も高くなっている。

性／年代別で見ると、「学校など教育施設における交通安全教育」は男性では12～15歳で9割前半、女性では12～15歳、16～18歳で8割後半と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「学校など教育施設における交通安全教育」が最も高くなっている。

